

浅沼稻次郎「列国議会同盟派遣団 訪米・訪欧 日記——1939年6月30日～10月2日——」 翻刻と解題

松本浩延

〔解題〕

本稿は、1939年（昭和14年）8月にノルウェー・オスロで開催された第35回列国議会同盟会議（以下 IPU と記す）に、衆議院派遣団の一員として参加していた浅沼稻次郎（1898～1960年）が、外遊期間中に記した日記の紹介と全文の翻刻とを行うものである¹⁾。以下に、日記の来歴と概要について触れた後、日記によって明らかになった事実とその意義について述べ、解題とする。

まず、史料の来歴について述べる。先述の通り、本史料は、戦後日本社会党の指導者の一人として知られる浅沼が、社会大衆党代議士として IPU 衆議院派遣団に参加していた際にノートへ記載していたものである。日記本文の大半は、国立国会図書館東京本館憲政資料室所蔵の未公刊文書「浅沼稻次郎関係文書」に所収されている²⁾。ただし、一部期間の日記は「浅沼稻次郎関係文書（その3）」所収のメモ³⁾に記載されていたため、そこから補い本文とした。関連史料として、IPU 派遣団に関連する新聞記事や写真類、現地で使用した切符やパンフレット類等を中心としたスクラップブックが、同じく浅沼文書内に収められている⁴⁾。

管見の限り、筆者の博士論文による研究⁵⁾を除き、本日記を使用した研究や評伝類

-
- 1) 解説にあたっては、森靖夫（同志社大学法学部教授）のご助言を賜った。また、データ整理等には、徳重伸、井本莞司（いずれも同志社大学大学院法学研究科博士前期課程修了生）からも研究協力者としてご助力を賜った。記して感謝申し上げる。
 - 2) 「昭和14年5月1日活動日誌【5月-12月】第74議会【昭和13年12月-3月】議会活動日誌」（憲政資料室所蔵『浅沼稻次郎関係文書』2246、R151）。
 - 3) 8月16日～19日（IPU 会議出席中）の記載分のみ「メモ」（憲政資料室所蔵『浅沼稻次郎関係文書（その3）』5677）に所収されており、この期間分のみ「メモ」記載分を日記とした。
 - 4) 「新聞切抜 浅沼帰国談 昭和14. 6～7」（憲政資料室所蔵『浅沼稻次郎関係文書』2496、R180）、「新聞切抜 浅沼帰国談 第二次大戦等」（憲政資料室所蔵『浅沼稻次郎関係文書』2497、R180）、「[Scrap Book]」（憲政資料室所蔵『浅沼稻次郎関係文書（その3）』5857）。
 - 5) 拙稿『浅沼稻次郎の政治指導——「野党」日本社会党の形成——』（同志社大学博士論文、2019年）。

は存在しない⁶⁾。同時期に浅沼らがドイツ・欧州に滞在していた史実自体は、泉孝英によって行われた第二次大戦下の人の移動に対する詳細な研究の中で言及されているものの⁷⁾、そもそもIPU派遣団が欧州へ派遣されていた史実自体が広く知られていないのが実情であるといえよう。もちろん本日記全文の翻刻は本邦初である。

日記は、私物のノートに自筆で記載されており、記載期間は横浜港からカナダ・バンクーバー港へ向けて出港した1939年6月30日に始まり、スウェーデン・ヨーテボリ港を発しアメリカ・ニューヨーク港へと帰港した10月2日までとなっている。この間、7月の北米周遊、8月15～19日にIPU会議へ出席、その後北欧・バルト海諸国を視察した浅沼は、9月1日にベルリンで、ドイツのポーランド侵攻の報に接することとなる。日記は一部の期間を除き、ほぼ毎日記されている。

次に、日記によって明らかになる事実とその意義について、4点に分けて述べる。

第一に、浅沼の国際情勢認識や政治的信念が明らかになっている点である。9月中旬には、北一輝『支那革命外史』を読みながら、一輝の実弟であり派遣団員の一人でもあった北吟吉と議論を戦わせる姿や、9月27日には大川周明の『日本二千六百年史』を読みながら「[大川が]愛国の熱情に燃へながら革新の必要をとくあたり、自分のからだにしみ込んでゆく様な気がする」と記すなど、浅沼の持つ国家主義的志向がはっきりと明らかになっている。なお、戦間期の北吟吉の思想については、「アジアモンロー主義」という概念に示される北独特のアジア主義や、国家社会主義と区別したファシズムへの傾倒に特徴づけられると、クリストファー・W・A・スピルマンによって指摘されている⁸⁾。

さらに、9月22日の日記には「全世界はイデオロギーや理論を以って解決する事の出来ない。すべて現実を中心にして動いて居る様な気がする」と記し、独ソ不可侵条約へ衝撃を受けつつ、冷静に国際政治の現実を受け止めている姿も読み取れる。

日記からには他にも、東亜新秩序構築へ熱意や、アジア主義への共感も読み取るこ

- 6) 浅沼暗殺事件を主題とし、同時代の関係者への聞き取りも行っている緻密なノンフィクションとして沢木耕太郎『テロルの決算』（文藝春秋、1978年）。浅沼個人に対する代表的な評伝として大曲直『浅沼稻次郎 その人・その生涯』（至誠堂、1961年）、鶴崎友亀『浅沼稻次郎小伝』（たいまつ社、1979年）、豊田稷『浅沼稻次郎 人間機関車』（講談社、1991年）がある。なお、浅沼に対する政治学上の研究動向については、拙稿「浅沼稻次郎の政治指導（1）——1955～1960年——」（『同志社法学』70巻1号、2018年、43～89頁）にまとめている。
- 7) 泉孝英『日本・欧米間、戦時下の旅—第二次世界大戦下、日本人往来の記録』（淡交社、2005年）。44頁に浅沼が引揚船（グリプスホルム号）に乗船した旨のみ記載されている。
- 8) クリストファー・W・A・スピルマン「北吟吉の戦間期——日本のファシズムへの道」（伊藤之雄・中西寛編著『日本政治史の中のリーダーたち——明治維新から敗戦後の秩序変容まで』第四章、京都大学学術出版会、2018年）。

ともできる。9月26日には「日本は歐洲の戦争を一個の天佑と考へる向きもあるが天佑には相違ないが次に来るものにそのへる為に今から準備すべきである。それは自主独立の力を養ふ可きではあるまいか？民族全体主義は→超民族地域主義に發展すべきではあるまいか？」と記し、また同月30日には「東亜聯盟論と云ひ、東亜新秩序と云ひ、東亜協同体と云ひ、新尊皇攘夷論に非らざるか？決してそれは所謂帝國主義ではない。Nationalism と Nationalism の上に新たなる東洋精神の確立、新たなる秩序の確立である」と記すなど、欧州の劇的な情勢変化を目の当たりにし、北一輝・大川らの著作や北吟吉との議論⁹⁾などを通して、その信条を強固なものとしてゆく姿が明らかになるのである。

以上のように、本日記からは、熱烈な愛国主義者にして、素朴なアジア主義者としての浅沼の輪郭が浮かび上がってくる。そして、本日記が示す浅沼のこのような思想は、ほとんどそのまま戦後へと受け継がれたと筆者は考えている。

さらに言えば、同時期の無産政党政治家に対する実証研究は、最初期のものとして高橋彦博らによる研究があるほか¹⁰⁾、未公刊文書も視野に入れた研究として山室建徳¹¹⁾、有馬学¹²⁾、及川英二郎¹³⁾による先駆的な研究があり、近年では中北浩爾¹⁴⁾、菅谷幸浩¹⁵⁾、佐藤信¹⁶⁾らによる研究が存在するものの、その数は既成政党やその政治家のそれと比較してまだ少ない。このことは、容易に参照できる史料が不足していることも一因と考えられる。しかしながら、福永文夫による『河上丈太郎日記』の出版¹⁷⁾や福家崇洋、立本紘之、杉本弘幸らによって『社会民衆新聞・社会大衆新聞』

9) 凡例にも記した通り、浅沼の語学能力は高くない。ただし、日記中にもある通り、新聞記事から情報を得ていた他、ドイツ語に精通する北吟吉を通して情報を得ることができていたと考えられる。

10) 高橋彦博・増島宏・大埜節子『無産政党の研究——戦前日本の社会民主主義』（法政大学出版局、1969年）。

11) 山室建徳『社会大衆党小論』（『年報・近代日本研究』5、山川出版社、1983年）同「政党内閣期の合法無産政党」（『社会科学研究』第38巻2号、1986年）。

12) 有馬学「田所輝明と満洲事変期の社会大衆党——1930年代における『運動』と『統合』-1-」（『史淵』第125巻、1988年）、同「1930年代における『運動』と『統合』-2- 日中戦争と社会大衆党」（『史淵』第129巻、1992年）。

13) 及川英二郎『社会大衆党の国家社会主義と国際政策』（『史林』第79巻4号、1993年）。

14) 杉山が遺した日記などを使った実証研究として中北浩爾「戦前無産運動の再検討——杉山元治郎をめぐる」上下（東京大学出版会『UP』320号、321号、1999年）。

15) 菅谷幸浩「社会大衆党における革新派路線の展開と挫折——翼賛政治体制形成期を中心に——」（学習院大学『政治学論集』第22号、2009年）。

16) 佐藤信『鈴木茂三郎：1893-1970 統一日本社会党初代委員長の生涯』（藤原書店、2010年）。

17) 福永文夫、「関西学院と社会運動人脈」研究会監修『河上丈太郎日記 1949—1965年』（関西学院大学出版会、2014年）。記載分は戦後分ではあるが、無産政党政治家のまとめた日記の

の復刻が行われるなど¹⁸⁾、史料公開の機運は高まっている。本資料紹介もこうした史料参照環境の向上に寄与しようとするものでもある¹⁹⁾。

第二に、IPU 派遣団の実相を明らかにしている点である。派遣団は、浅沼のほか、政友会代表として第一次近衛内閣の内閣法制局長官であった船田中、立憲民政党代表として多摩帝国美術大学（現多摩美術大学）の創設者でもあった北吟吉、そして衆議院書記局書記官の大池眞のあわせて4人で構成されていた。

それぞれ戦後には、船田は閣僚や衆議院議長を歴任し、北は初期の日本自由党の政務調査会長を務めるなど主に鳩山一郎と政治行動を共にし、大池は帝国議会最後の衆議院書記官長（1945～1947年）にして国会最初の衆議院事務総長（1947～1955年）に就任するなど、各自要職を歴任している。戦後へも脈々と続いていた意外な人脈の背景には、第二次世界大戦勃発時にドイツに滞在していたという共通の危機体験があったといえる。

また近年では、戦間期のIPUと帝国議会との関係に光を当てた実証研究が、伊東かおりを中心に精力的に進められている²⁰⁾。本日記や関連史料は、こうした議院外交を検討する際の一助ともなるであろう。

第三に、戦時下における人の移動の実相が明らかになる点で貴重である。戦時下の邦人の移動については、近年改めて注目が集まっている。第一次世界大戦期のものについては、奈良岡聰智による研究があり²¹⁾、第二次世界大戦時期についても先述の泉孝英による詳細な研究が存在している²²⁾。本史料は、こうした戦時下の人の移動という研究テーマに対しても、新たな光を投じるものとなるであろう。

そして、第四に、アメリカやドイツ、北欧などの在外公館に赴任していた日本の外交官や軍人らとの会見の際の様子が記録されている点である。特に、独ソ不可侵条約締結に翻弄される大島浩（駐ドイツ大使）や、憤慨する河辺虎四郎（駐在武官として

出版は珍しく、史料的价值は高い。

- 18) 福家崇洋、立本紘之、杉本弘幸『社会民衆新聞・社会大衆新聞【復刻版】』（三人社、2019年一〔刊行中〕）。
- 19) 有力な無産政党政治家の個人文書として、「河上丈太郎関係文書」が2020年に憲政資料室で公開されたほか、法政大学大原社会問題研究所所蔵の「鈴木茂三郎文庫」、軽井沢町立図書館所蔵の「三輪寿社関係文書」などがある。
- 20) 伊東かおり「戦間期の列国議会同盟と日本」（『国際政治』193号、2018年、29～43頁）、同「第一次大戦前後における列国議会同盟（IPU）と国際平和主義団体——日本議員団再組織をめぐる宮岡恒次郎の活動を中心に——」（『史学雑誌』128編10号、2019年、24～51頁）。IPUに対する国内外の研究動向については伊東の先行研究レビューを参考にした。
- 21) 奈良岡聰智「『八月の砲声』を聞いた日本人——第一次世界大戦と植村尚清「ドイツ幽閉記」」（千倉書房、2013年）。
- 22) 前掲泉『日本・欧米間、戦時下の旅』。

在ベルリン)の姿などは大変興味深い。他にも堀内謙介駐米大使や栗山茂スウェーデン公使など、外交官との会談内容も記載されており、彼らの同時代的な国際情勢認識を検討する上でも一定の価値を有するものである。

なお、翻刻は後述の凡例に従って行った。

〔付記〕

本研究は JSPS 科研費 JP19K23183、JP20H01312の助成を受けたものである。

〔凡例〕

- ①旧字、異体字、合字は新字体に統一した。なお、人名・地名等の固有名詞については、一部そのままの字体を用いている。
- ②〔 〕は筆者註、[]は本文記載のスペース、()は原文記載である。解読に疑問が残った箇所はカ、文意に不自然な点がある箇所はママとした。
- ③紙幅や可読性を考慮し、適宜改行を施したうえで、読点・句点の挿入も行った。
- ④判読不能の箇所は推定字数分を□で記した。なお、浅沼の字には独得の癖があり、判読困難な物が多く、また誤字脱字も多い。特に英語の綴りにはかなりの量の間違いが見受けられる。このうち、明らかなスペルミスについては補ったうえで、その旨を註記した。
- ⑤日付の記載については、原文に表記ゆれがあったため、可読性を考慮して統一した。また、日記のページ欄外記載分は、本文と密接に関係があると思われるものについては、適宜本文中に挿入した。本文との関連が不明な分は、【 】として本文とは区別している。

旅程 (1939年6月30日～10月28日)

- 6/30 横浜発
- 7/11 バンクーバー着 同日発
- 7/12 シアトル着
- 7/14 シアトル発
- 7/15 ポートランド着
～カリフォルニア周遊
東海岸へ移動 ニューヨーク万博、D.C. 視察
- 8/1 ニューヨーク発
- 8/8 プレーメン着 同日ベルリン入り
- 8/11 ベルリン発
- 8/12 ストックホルム着
- 8/15～19 オスロ IPU 出席
- 8/24 ヘルシンキ着
- 8/26 タリン着
- 8/27 リガ着
- 8/29 ベルリン着
- 9/1 ベルリン発 ハンブルク着
- 9/2 コペンハーゲン着
- 9/21 コペンハーゲン発ストックホルム経由
- 10/2 ニューヨーク着 (日記はここまで)
- 10/13 サンフランシスコ発
- 10/28 横浜着 (鎌倉丸)

IPU 衆議院派遣団

- 船田 中 (立憲政友会)
- 北 昴吉 (立憲民政党)
- 浅沼稻次郎 (社会大衆党)
- 大池 眞 (衆議院事務局)

欧米行（万国議員団会議出席）

6月30日 晴

午後1時40分東京発にて小田原行列車にて横浜に向ふ。社大党、郷党関係、本所、深川、第三区関係の同志議會関係者の見送りを受ける。永井、島田、小川、小山、金光正副議長、岡野牧野、高橋義次等々。市会関係者亦多数□□、銀座〔カ〕、杉浦。

4時解纜。横浜にも多数の同志見送る。横浜支部の同志、石塚一雄氏等々。7時食事をなすが丁度舟は外房洲にかかる。同船中、日本貿易振興協会のアメリカ経済視察団の一行あり。Deck Class は仲々賑きやかである。

7月1日 晴 海上穏

山道襄一、草間日〔本〕橋区長。谷川昇氏より祝電来る。

7月2日 晴 海穏

田原からおくられた会話の研究をなす。多くの同志より出発を祝ふ祝電来る（電報参照）。

7月3日 晴

東君のアラスカ並にアルート群島の講演を聞く。ベーリング海峡名の由来、並に6300哩を歩いて探険せるそのベーリングの苦心談、ゴールドラッシュの水河話等々興味深きものがあった。

同行の視察団、碁、将碁をや^{ママ}って居られるが、自分は下手なので何だか手が出せないが、我慢しきれずに教を請ふたが、下手は下手でどうもならない。惨敗に惨敗だ。然し強くなって帰るだけは請合だ。

7月4日（晴）

亜米利加の独立祭——船長アメリカ客接待の為二等に行く。夜は日米両国の旗を飾って晩サンをなす。

北吟吉氏、海南島並に支那問題に就て講演をなす。北先輩は先に、広東、香港、海南島、台湾と視察に帰られての視察談得る所多し。

碁——ドクターに立会ふが、仲々の名人、側にもよる事困難。然し旅行に出て碁が強くなって帰れそうだ。それだけ何だか、海外に出て碁が強くなるといふ反対の結果になるらしい。

7月5日(曇)

今日は読書する。1. 亜米利加案内 2. 欧米を廻って——桑原信助 3. 日米をつなぐ者等々。同僚桑原信助君の著書には教へらること多し。田原からおくられた会話集を読むが、言葉は仲々困難だが、然し何とかなる様な気がする。

夜一等船客全部で、すき焼会を催したが、仲々藝人の多いのには驚く。大池君、船田君詩を吟じ、北先輩、相川の鉦夫の歌をうたふ。うまい者である。事務長、機関長、船長皆うたふ。最後に東京音頭を船員諸君が女装して登場して歌ひおどったが、之亦仲々うまい。山本さん三味線を引くなど仲々愉快至極である。いささか飲み過ぎて、風呂に入って11時寝につく。

◎子供三人遊びに来る。船中子供の声も亦いいものである。30分宛時計が進む。

7月5日¹⁾ 曇(晴) 南西風

180度を午前4時に通過す。従って六日が四時間にて、亦5日を繰返すことになる。従って一日年を取らない事になる。食事後、食堂にて戦時下労働運動の現勢に就て講演をなす。先に船田君、北君先輩が行はれて、最後に私に廻って来た理由である。明日は救世軍植村氏の講演がある予定。

本日船は丁度太平洋4800哩中の半分を過ぐ。海上相変わらず静かなり。サロンにて午後漫談をなす。夜『日米をつなぐもの』山下草園氏の著を読むが第二世問題の重大性を感じず。碁三敗〇勝。尚、北先輩現下政治問題に就て大に論ず。

ニスにて外蒙問題愈々重大化しつつあるを知る。亦、興亜院に興亜委員会が設けられたる事を知る。船がバンクーバーに近づいて来るので、今日から東京に夫々ハガキを書く。

人工の都市集中、文化の都市集中を批判し、文化地方分散の緊急事なる事を論ず。

To V [Vancouver] 2170 mile From Y [Yokohama] 2125 mile。

八時でまだあかるい。夜活動写真を見る。日本困難の姿を洋上で見るのも一入の味を加へる。

【欄外】

赤坂区青山南町三ノ三十四 大陸国策研究所

(人口問題) 綾川武治

文化地方分散の緊急性

永井潜著 「叛逆の息子」

1) この日より現地時間。

出産率の低下。都市への集中。

国土計画と地方計画。

結婚奨励。乳児の管理。

{	賃銀
	家賃等 (カ)
	地代
	税金

金沢医科大学教授研究

祖国六号 参照

人的資源の培養

←	物的資源
←	人的資源

労働力の育成培養

◎亜米利加の独立祭に560名死すとの事——盛大なるもの

【欄外】

質問 産業報国会に就て
産業報国会と労働組合

7月6日 曇

今日は幾分暖かい様な気がする。昨日で丁度半分を通過したので、何だか急に亜米利加が近づいて来た様な気がする。午前中は欧州見物案内をよみ、旅行先の知識を得る事につとめる。

昼食後、船田、北、大池の諸君と共に団の全体会議を開き (i)帰朝後報告書を書く事 (ii)アメリカにては北氏は単独行動を取らるる事 (iii)船田、大池氏と共に大陸横断なす事となる。そして、私は主として各地の労働者問題を研究する事となし、取りまとは北氏之を行ふ事に決定。

午後三時半より食堂に東君のアラスカの話聞く。興味津々におえる。

氷河の国

{	エスキモーの国
	ゴールドの国

鮭、金、銅。面積我が全土と満洲国を合せた様な大き [さ]。人口約五万七千。ユダヤ人入り来る。(ドイツを追はれた。)

夕食七時半。偶々北先輩より大山、杉森、木村泰賢、土方氏等々の留学中奇行奇談を聞き、学者も相当にやると感ぜしめられた。

夜、経済視察団松永氏と懇談す。アメリカが近づき来たのでそろそろ友人にハガキを書く。

7月7日 晴 霧深し

支那事変一週年を洋上に迎ふ。第一線将兵諸氏の労苦を思ひ、英霊に対し正午汽笛を合図に黙禱をなす。

午後、社会大衆新聞に原稿を書く。北先生相変わらず談論風発元気旺盛壯者を凌ぐ。今日は東亜連盟論をよむ。同志への通信を書く。

船は約2800哩を航海して余す所1400哩。丁度三分ノ二来る。

7月8日 曇

御茶の会 ————— コヒー

寿司

写真を取る

すき焼の会

経済視察団 (5日)

ウタヒ

三味線

佐渡オケサ 北

詩吟 船田 大池

大久保 漫談

7月9日 晴

漸次大陸が近づいて来る。矢張十日も船に乗って居ると何か亦岡が見たくなる。人間とは勝手なものである。

9時半より、植村救世軍少将より救世軍の話聞く。うまいものだ。言葉に無駄がない。よくきかせる。プース大將がLondon East 貧民階級の救済運動からとき起して、現在におよんだ。仕事をなすことはむづかしいもので、初はチョウローの時代、次受難時代、更に成功の時代なるが、救世軍も正に三回の段階を経て来て居る。

船田君と将ギをやったが似たりよったり。午後諸君変りなし。

すき焼きの会を催す。

7月10日 晴

愈々十一日は着く事になるので、荷物の整理をなす。船長の招待あり、船長室にて

船の船〔話カ〕を聞く。

夜、最後の晩サン会でメートルをあげ、船長の挨拶、船田さんの謝礼、視察団長のバンザイ、北氏の御話、浅沼の二者紹介と話はずきず、最後に船長万歳をなし、いささかのみすぎた。更に部屋で北と飲んで11時頃ねる。

7月11日 晴

目がさめれば、船は海岸近くを航行中にて既にカナダビクトリヤの検査官^{ママ}の乗って居る。検査、旅券の査察がすむと既にバンクーバー港に着く。バンクーバー、明るい町だ。

上陸→日本人倶楽部——領事会——日本人会歓迎会——市内見物

大学の校庭²⁾に新渡戸稲造氏の碑：Park³⁾に大戦当時義勇軍に参加した我同胞五十四名〔カ〕の碑なり。邦人は約二万二千（カナダ）バンクーバー内外に八千。木材、漁業、農業。

7月12日

8時シャトル着。検査、旅券の査察を受けて上陸。ホーランドホテルに着く。正午より木曜会懇談会。船田、北、浅沼、短かき講演をなす。木曜会は在留邦人インテル〔カ〕の集会。夜、日本人会幹事の歓迎会。日本料理まねきにて。八時より演説に出席。祖国政治の動向に就て約一時間の講演をなす。

本日は非常につかれた。北氏の演説はきかず、ホテルに帰りねる。ぐっすりよくねた。

7月13日

9時出発。M.T レニアに登る。(氷河)。山は1万4400尺。氷河。M.T. Rainierに就て案内書を求める。自動車にて郵船の同志の案内。登中、熊が出る。氷河15哩。Tacoma、雲海と化して居る。日本料理の弁当。うまい事非常なもの。

夜、郵船支店長の招待会。北氏は米国会の歓迎会に行く。石出君（領事館）、佐藤船長〔 〕懇談の限りをつくす。いささか酔った気がする。

【欄外】

支店長——小笠原君□□□話が合う

□□英国人

-
- 2) ブリティッシュコロロンビア大学キャンパス内の新渡戸記念庭園。
 - 3) スタンレー・パーク (Stanley Park)。

7月14日 晴

5時頃起きて、手紙ハガキその他種々整理をし、且午後の演説会の原稿を作る。

大陸上陸して考へさせる事は種々あるが、すべては大き〔さ〕。12日に Seattle⁴⁾ 各所を見物したが Washington⁵⁾ lake に四哩に橋をかける計画をして居る。桑港には七哩の橋がある。

日本関係 亜米利加と英国とは結局に於て一所になる。之を別々に考ふる事は困難な事と信ずる。

初めて亜米利加の汽車に乗る。Full Maw Car にて Drawing⁶⁾ に船田、大池君と共におさまる。北氏は自動車にて安武君と共に行く。

八時二十分 Seattle 発 Portland にて下車。オレゴン River を見物を、出迎の洞上日本人会長、[] 書記生と共に Kita House 迄行く。亜米利加一の便。絶壁の土に建てられて居る。M.T. Foot、ダム等みる可きもの多し。M.T. Foot は約一万一千尺。M.T. Daniel かすかに見へる。

6時、日本人会及祖国会主催の歓迎会に暁亭に臨み、夜日蓮会館にて演説会を開く。先頭を切つて雄弁を振ふ。今日は出来はよし。漸次亜米利加でも板について来る。新東亜建設の為に闘ふ祖国と題し、約一時間。次、船田中君、最後に北吟吉氏。

Portland は鉄屑の積出を支那人がボイコットし、遂州議会にて will [カ] 決定せん[と] する形成の中に、日本人会領事一体となって活動せる話を聞く。

懇親会の席上では(1) 外務省は派遣使節を廃止すべし(2) 日本人会を補助すべし(3) 第二世問題が重大になる(4) union に関する事等々に関する意見が、歓迎の辞となって、現れ来る。更に宝塚の振袖使節は失敗だったらしい。足を見せておどつたら、男と思ふて、後は女と分つて驚いたとの事。

昨〔日〕は北氏、信用状を洋服と共に出す。三月の旅行でありながら、慌てたと苦笑して居た。

亜米利加は、社会秩序はあるが、国家観念が薄い様なこと感ぜられる。第一世は祖国愛にもへて、事変下に於てよく活動して居る。

自動車——40——60—70——80

Car は下駄である。蒙古 馬は下駄

日本 自轉車は下駄

石油文明 自動車は 四人に付一人

4) 原文では Seattle。

5) 原文では Washinton。

6) Drawing Room。

加州にては四人に付一人
 道路のよい所 Seattle
 TAG [Cカ] oma
 住宅問題、配給機関の問題等、慎重に考
 へねばならぬ。
 Seattle—San Frane

松岡洋右氏、国際連盟脱退宣言後、ポートランドに立寄り、大学時代世話になった御母さん□の墓をつくり、名声を博して居る。邦字新聞は、本日英国大使館を土方の民家が建てるに非ず。然勉強した気持は一杯だ。

15日は、8時15分発にて、桑港に向ふ。四人一所。16日は桑港にて演説がある筈である。

PortLand⁷⁾ は、日本人会と領事の間にうまく行って居た。昨夜の宿屋も日本人の経営するもの。亜米利加の習慣、大体日本人の逆。自動車は右左である。自動車道には人は一人も歩かない。1Gaseより5銭の税にて、自動車道路を作る。Trainer Car 自動車で慢歩して歩く。規模がすべて大きい。亜米利加人はWorld Great とい〔っ〕た様に、何でも世界一。亜米利加を誇る。

支那事変に就は、幾分体度が緩和され来たことを聞く。果たして然るか？

亜米利加人 { ピストル
 女

亜米利加をもっと知るの必要あり。ヒットラーの気は非常に悪い。従って、日独伊防共協定問題の発展には非常な関心を持って居る。

7月15日

Portland—汽車

7月16日

San Francisco — [] [破損]

Kishu-Hotel

講演会 船田、北、浅沼

7) 原文では PortLande。

笠井重次〔治〕君の弟君に会ふ

日本人会主催 まねきにて招待会

Fair 見物日本館 天日〔光一〕書記官

7月17日

Sacramento (桜府)

不老林 (谷川氏)

佐藤〔敏人〕総領事招待会

7月18日

日本倶楽部招待

7月19日

9.AM. Los Angeles noon 吉田領事招待会

午後見物——Holly-wood 本川氏、八丈菊地氏来訪さる。

夜、講演会 約二千 Yamato-hall 田原君の姉君及夫君来訪 土産に煙草を頂く。

7月20日

人口二万四千、海軍根據地

San Diego⁸⁾ に行き国境を越へ Mexico 領チアノに行く。亜米利加が禁酒をした時に酒場として大に発展したが、現在の大統領は之を禁止して、今では非常にさびれて居る。Car にて125哩（更に10哩）を往復して、夕刻6時帰羅府す。

夜は本川君、時田君の案内にて、Long Beach に見物に行く。

Kan Yoshida 東久世郵船支店長——亀井、道家の友人。3哩沖合にバクチ船あり

中西雄洞君に会ふ。Asia 会を営み、相当の成功者である。

7月21日

北氏と共に、書物市場、花市場を見学し、午後1時35分の Santa Fe⁹⁾ 線に立つ。

7月22日

列車中 8.15 AM. Grand Canyon Tover Hotel

8) 原文では Sun Diego。

9) 原文では Santa Fa。

7月23日

〔本文記載なし〕

7月24日

〔本文記載なし〕

7月25日

New York に入り、Astoria Hotel¹⁰⁾ に泊す。

7月26日

日本人倶楽部、日本人会、総領事館招待会

7月27日

〔本文記載なし〕

7月28日 晴 風ナシ

今日は6時起床。Postal を呼んで荷物を預け、出発の準備をなす。旅館でやる事もなれて来た。7時半に grill で船田、大池君とに Breakfast を済まして、更に宿の支拂を済まし、出発時を待つ。

9時に East Air Line に行き、自動車 (Bus) にて New York 飛行場に行き、10時5分の Air にて Washington に行く。空上何等の動揺なく心持よし。雲の上を通るのも気持のよいもの。時折機は雲の中に突入するが、皆んななれたもの。時々 Boy が見廻って来る。同乗者21名。新聞を配布して呉れる。

11時30分頃、Washington に着す。堀内大使、須磨、参事官等出迎へて下さる。大使館にて打合せ。且、使の話¹⁰⁾を聞き、正午 Hotel にて昼食をなし、書記官の案内にて Senate¹¹⁾ 上院に行き、Tyding 氏に会ふ。Tyding は Piripin [Philippines] 独立案を議事に提出された人。東洋通。私が Japanese としては大き [い] ので、North 生れかと云ふ。No South と答へる。体だけは西洋人の中に入っても引けを取らぬ。

上院を傍聴する。議席数96名で、非常な小数であり、且權威がある所。然し、Free Talking 式でなんとなくしまりがいい様な気がする。日米通商條約を破棄を声明せる翌々日の事であるとして非常に感慨深きものがあつた。Tydings, Pittman, Johnson, Barkley, Lodge 等々が目に着く。

10) 原文では Hotle。

11) 原文では Saneite。

後、下院 Speaker William Bankhead 氏に会ふ。主に、船田氏対談す。支那事件に聞ふれば〔カ〕、日本は條約を無視するからいかぬと云ふ。今度は平和の時亦会うなどと云。風格と云ひ、議會人としての鍛錬と云ひ、何となく前議長富田氏を思ひ浮ぶ。

更に議場傍聴席にて論議を傍聴したが、出席者小数であるが、熱心に論議を展開しつつあるがまだ Hearing がうまく分らないので、聞き取れない。然し何だか政府を攻撃して居つたらしい。議長が時間の来た事を催促する。

傍聴後 National Park [] に行つて Washington¹²⁾ の住んで居つた家を訪ひ、墓をたづねる。亜米利加独立の為に起つた Washington の面影がしのばれる。Washington が使用した一切のものを陳列して、国民に知らしめ、且墓を訪ねしめてその伝統を尊ばんとする努めて居る事がよく分た。帰途、無名戦士の墓を訪ふ。大きな公園式〔の〕ものとなつて居る。奥ゆかしく、且参拝者がたへない。

一旦 Hotel に帰つて飛行機を約束し、7時大使の招待に臨む。出席、堀内大使、須磨参事官、西財務官、加瀬参事官¹³⁾ 二十余名。陸海軍武官もおり、種々祖国の実情を話すが、仲々つきず。

Roosevelt¹³⁾ が三期大統領をやるかやらぬかといふ事も話題になつたが、Roosevelt は野心がある、特に今回の日米通商條約破棄は、彼の内政問題処理人気取の現れとも考へられる。彼はやるのではないといふ意見が強い。

反対党共和党幹事長 Hamilton が、何等も議員選挙に於て十二割以上増加した党派が、丁度大統領選挙には勝つ事になるが、共和党は23割の躍進をなして居るから、当然勝つのであるが、一つ必ず勝つといふ事の stamp の押せない事がある。

(1) Rose が野心がある事 (2) Rose 何となく〔C〕harming で人気を取る。(3) Rose 以外には Democrat の中々人がない (4) 彼が非常時を高唱して、Democrat に人なしといふ事になつて出て来ると思ふ、と言はれ居つたと云ふ。

然も彼は内務大臣をつかつて黒人をなづけて居る。N.D.L、WAP〔WPA¹⁴⁾ カ〕等で労働者の人気を取つて居る。更に述上の如く日米條約破棄は彼の選挙対策の現れであるといふ。他の候補者に就てははまだ予想が出来ない。11時半頃迄懇談をつづけて宿にかへる。明日も上院有志を訪問する予定。

7月29日 晴 暑 後雨

午前8時起床。食事をすまして大使館宮崎書記官の来訪を待つ。宮崎氏の案内にて上院議員 office に Barklay を訪ねる。名刺を進ずれば喜んで面会したが非常に忙しい

12) 原文では Whashington。以下同じ。

13) 原文では Rosvelt。

14) Work Projects Administration、公共事業促進局。

様で書類持参の^マ尽の面会にて、之といふ話の非常に遺憾だった。彼は問題にふれ様とはせず一通の挨拶で済んだ。

図書館を見物して10時半に VANDEN Berg に会ふ。彼は非常に元気で且戦鬪的で一場の挨拶はしたので俺も日本に行つ〔た〕日光金谷ホテルに泊った事があると幾分愛キヨウを振りまいて何か聞きたい事はないかと聞かれた。

船田氏は単刀直入に亜米利加は何故條約を破棄したかといふと、彼は日本が條約を無視するから、特に英ハネ一号事件、婦人の頭をなぐる、亦亜米利加の權益を無視するからいかぬと云ふ。船田氏は條約は解釈の相違であり支那に於ける事件は止む〔を〕得ざる過失と云へば、Vandenberg は過失もある、その中には故意もある。亜米利加の国民 emotional な国民だから一寸した事が□□戦争に迄發展するかも知れぬと一寸おどろかせる。亦、東洋の新たなる situation には新たな條約が結ばれて然る可きであるとも考へられると云ふ。会見約二十分大に得る所あった。

後、海軍、陸軍武官室を訪ね〔 〕 Gilt 倶楽部にて海軍小川大佐の招待出席す。議論は通商條約破棄に及ぶ。日本はあはててはいけない。打つ手はあると云ふ。3時半に Hotel Catern に帰り支拂をすまして、飛行場に行く。飛行機は雨の為おくれ5時に出発す。須磨、宮崎、加瀬氏等見送つて呉れる。

Vandenberg と会見後須磨、^マ参事館を大使館に訪ね、須磨氏より條約破棄のその時の有様をきく。26日に Hull¹⁵⁾ から会ひたいと云つて来たから Hamilton¹⁶⁾ に電話。

会 Sumner Welles¹⁷⁾

Hull

極東部長 Hamilton

秘密に且決定した

発表を5時にする。須磨、日本政府が知らない中に発表する事は情誼に反する、5時間まで。5時間またせて10時発表となつたとの事。

ただ此の際注意すべきは穩健だった Hull がイーシャチブを握つてやつたらしい。特に海軍の動向は注意すべきである。Peg の話。重慶爆撃の折の報告。50□ Feet の所に爆弾が落ちた。日本は自重して事件の推移を見る可きであるといふ。須磨氏、今回満州国に転勤され15日の船で帰るといふ。

Astoria に帰宿の後にはゆっくりと風呂に入ってやすむ。10時頃から日記を書きて12時就眠今日は非常に得る所があった。

15) 原文では Haru。以下同様。

16) 原文では Humilton。以下同様。

17) 原文では Samer-Welles。

洗タクものを出せば一切が Monday-eye 出来ると云ふ。

【欄外】

大使館に刺を通じ札をのぶ

7月30日 晴 (曇)

今日は三菱の Summer Leisere 招待さる。北氏来育 Pennsylvania¹⁸⁾ に宿す。長嶋氏と共に来り。10時 Car にて永島氏宅に行き一休なし、夏の家にく。商事、銀行両関係者と共に会食、大に懇談す。話は通商条約破キ問題にふれる。前途を大に憂慮さる。

夜 Seaside を見物。夜は総領事若杉氏の招待会に出る。同盟記者萩原氏も列席して話は条約問題から、小橋、亀井、鳩山、森格氏とその他人物観も出て非常に賑ふ。総領事の Wife は森格の兄様の御子息の由。亦子供さんは三輪氏の子供と番町小学校時代より一所の由。

永島の御子息——第二高等学校 弟さんは十四才で5尺四五寸ある。元気におどろく。一所に写真を取る。

【欄外】

郵船支部長柳沢氏も来訪さる。

7月31日 晴

7時起床。今日は9時食事を済ませて大池君と共に正金に行き \$ 400を下げ、支店長西氏に会ふ。西氏密便〔使カ〕と称するものの事を云ふ。ロシヤ、オーストラリヤ人を使ふのはどうかと思ふと云ふ。破棄後は悲観的であるが、輿論の推移を見て対策を樹つ可きといふ。

後、郵船に行き運送屋を依頼すると共に \$ 109.10を支払、Europe 号 B Deck に乗る事に決定す。更に永島氏を訪ね、土産物、Mark 等の計算を済ませて Lunch¹⁹⁾ の御馳走になる。

領事館に御札の挨拶並びに Passport に書入によれば、総領事より本日堀内氏 Hull に会はれた由の話を聞く。然 Hull は非常に冷淡であった由。亦 (総) 領事より米国に於ける共産主義運動に就て聞く。

芦田君の案内にて N.B.C 下の日本店松本ゴルフ用具店を訪ふ。

18) 原文では Pensylvania。

19) 原文では Lunche。

【欄外】

三井商事を訪ね、一郎〔カ〕氏の案内に Empire State Building 102階、1250尺。大した建物である。

夜は三井商事、銀行の招待会に臨んだ。経済使節団の一行六名程同席、話は通商條約問題にふれる。支店長は無條約状態になった時に、(1) 国内法を適用される (2) 裁判権がなくなる。これでは前途が心配だと云はれて居た。特に先取引が困難になる。亜米利加は日本が折れ来るのを待って居る。利害で結びついた否実業を通して親善をやる外ない。

亦亜米利加は Democracy は形式で実は独裁である。Dictatorship であると云ふ。南米ブラジルは最近親米の傾向が強い。ドイツが南米にのびるからそれを警戒して居るのだといふ。将来は亜米利加の輸出入業者が如何に動くのか問題と云ふ。

【欄外】

芦田君に交通統制に関する資料を依頼す。

8月1日 晴

今日は一日博覧会見物。起床6時半。Baggage²⁰⁾の整理を行ふ。愈々博覧会見物を済ませて New York を出発する事になるので心持は非常に忙しい。整理を済ませて一風呂あびて洋服をといて昨日約束をした Endo Kodachi (遠藤小刀) 運送店の来るのを待つが仲々来ない。其処で Breakfast をすませ、支払して部屋に帰り、picadilly Hotel に電話する。Hotelに通じたが立川君は居らない。彼とは支那旅行一所にて懇意の中是非会たいと思ふ。特に外国に出て邦人に会たいのは人情である。会へなければと思って手紙を桑港郵船宛に書く。

10時半博覧会関係の同志に案内を受け、45分を走らせて New York 市主催の万博を見る。建設費 \$ 5 億 5 千万 \$ 非常なものを日本館、Russia、チェッコ、Romania、Poland、Italy、leage of nations を見て、General Moter に人力の如きものでゆく。American におさせて走るのも亦一入といふ所である。

G.M は非常な人気で入るを得ず。Tomorrow²¹⁾ World を見て、Bus にて British を見、日本館に至り一休して居れば立川君、商工省の図書記官と共に来る。一人はアフガニスタンに紹へいされて居った由。久澗〔闊カ〕を謝す。会へないと思った立川君に会へたので非常にうれしい。一緒に France 料理を食べ、我等は9時すぎに car にて

20) 原文では Bagage。

21) 原文では Tomorro。

Europa 号に乗る。

Europa 号は盟邦ドイツ船にて約五万トン。実に大きなものだ。其処に France の船あり、約八万噸といふ実に大きなものだ。郵船支部長永島君、香西君等々見送って呉れる。何だか相済まぬ様な気がする。香西君は早大の先輩。吉川君、阿部君、田原君とよい。田原君から話があれば建設時代の料金〔カ〕を集めるとの事。New York 市政一般のパンフレット及資料を依頼する。吉川君より講演に行きたいがと話があった由。阿部君、市及警察関係の調査をなせし由である。花田君より博覧会に電話来る。親切にして呉れる事うれしい。

Japan Day 市長の演説。

聖火 Russia 非常に宣伝的である。

Union (組合) の為に苦んだ。

12時半に船は岸壁を離れる。New York の夜景を船よりながめる。立体文明の美も亦といふ気がする。船が自由の女神の所を待って寝に就く。1時半。自由の女神は独立の際 France より寄附せるものの由。

甲板にて Japanese Gentleman に会ふ。南胃腸病院長並に長谷川君、渡欧の途中。船室は Hotel の様。各部屋ちょうど Hotel の様なものだ。America 人は船に乗ることを Hotel に泊る様に考へて居るらしい。

8月2日 晴 波穏か

11時 AM 目が覚める。大西洋上だ。船で単調な生活が始まるのであるが、大船なので何でも揃って居る。甲板を一周すれば一哩あるといふから相当のものである。Smoking Room²²⁾、Grill、Bar 等々、夫々設備が行きとどいて居る。

10時朝食。事務整理をなし、北代議士と Jew²³⁾ 問題に就て語り合ふ。2時 Lounge²⁴⁾。原稿の整理を行ふ。今日から愈々服を着きななければならない。シューツから出して見た所がしわだらけだ。Boy に頼んだ所が直ちに press して呉れた。とても親切で丁寧だ。

北氏と共に Smoking Room を Cocktail²⁵⁾ を一杯やって食事にゆく。食事後 Hall にて Gram を見る。外国人はとてもかけがすきだ。誰もやって居る。時々音楽をやって呉れるが、野人には分らない。10時半頃自分の部屋に帰って同志に手紙を書き1時寝につく。

22) 原文では rome。

23) 原文では Jue。

24) 原文では Lounche。

25) 原文では Cocktel。

8月3日 曇 波なり穩

8時起床、9時半食事。今日は午前午後共昼寝をする。今迄の疲れを此の際恢復して亦欧州で思ひ切り飛び歩きたいと思ふ。

北代議士より字引を拝借してニュースを読む。ドイツ語は何等の知識がない。ドイツに着く迄は食事の出来る位にはなりたいものだ。4時45分活動を見る。英語の勉強になる。

植村救世軍中將同船せられて居る。南博士父子、長谷川氏亦同船の事として此の船には北、南が居るとシヤレられて居た。7時 Cocktail Party 8時 dinner。9時半より藤野君に返信を書く。書きながら在米同胞の祖国愛に感激しつつ筆を走らす。1時就寝。

8月4日 晴

起床8時。Friday。波穩か。同志へはがきを書く。

午後4. 45時 motion picture を見る。America Texas の cowboy²⁶⁾ を題材とせる——Kansas California²⁷⁾ 地方を移住せる光景を取扱ひたるもの。途中 Indian の襲撃に会ひ火をはなたれて苦しむ姿に love を折り込めるもの。規模大にして非常によし。

7時30〔分〕dinner hall²⁸⁾にて歌きき、10時部屋に帰りドイツ大観を読む。今日は午後ドイツ語の研究をなす。早大にて第二外国語としてドイツ語を選びながら何等勉強しなかつた事を遺憾と思ふ。種々研究するがむづかしい。

Today - Tages

Today run - destang - 584 miles

船は44° /N 43° /W

News は常に Japan の記事を書く。我が日本の強大になりつつある姿がはっきりと目につく。

8月5日 晴れ 風穩

今日は非常に寝坊する。起きたのが午前11時遂に朝食を取りやめる。ドイツ大観をよむ。Hitler²⁹⁾ がドイツ民族発展の中に労働者の生活、否ドイツ国民の生活を求めたの活動振感激さる。

26) 原文では corboy。

27) 原文では Calfouia。

28) 原文では dinner halle。

29) 原文では Hitorer。

1時 Lunch news³⁰⁾を読む。イギリス議会に於、チェンバレーが日本の行動(東洋)、我等は血は湧き、我等は東洋に艦隊を派遣する用意ありといふ所、彼の老カイ振が見られる。必ず内には強く、外に弱い彼のドイツに対したる態度と同様にならねばと思ふ。

4時45分 Motion pictureを見る。AustriaのHotelを中心とせる軍事探偵の活躍を写真にせるもの。7時 Cocktail³¹⁾ Concert Smoking room。R. Kitaと論議す。8 A.M. dinner、chicken rice³²⁾を食べる。矢張、我々日本人には米が一番よい。Lounge Roomにて音楽をきく。くじをやり2 mark買ったが何等当らず。11時寝につく。大分寒さを覚へ、毛布一枚増加さる。

8月6日

Sountag den 6th August 1939。

曇。風穏。今日も朝寝をする。北代議士に [k] nock されておきれば、11時半である。本船の姉妹船 Bremen 号と12時に会ふからおきれといふ。起て身支度をして甲板に出る。しばらくして Bremen 号と会ふ。5万1千噸の快速力実に大きいいふ感じがする。

大きな船 France ————— 7万9千
Queen Mary 8万

【欄外】

世界の歴史は タンチヒと天津問題が中心に廻転しつつある。

1時に四人会食す、newsはChamberlainの演説に应へて祖国海軍、陸軍用意ありと声明す。世界の歴史は更に齒車の速度を早めつつある事を感じる。

Monday 7th August

6. 30AM Cherbourg —Fr.

11. —AM Southampton —En

Tuesday 8th August

Bremen

8. A.M.

30) 原文では Lonch news。

31) 原文では Cocktel。

32) 原文では chicken Raice。

ドイツ大観

国民を敬服し得るに足る理想と国民的な考へ方独逸的な政治理想。内憂外患に対する救済者。

ヒットラーの我が斗争

政党の力は訓練された服従の中に宿るものである。信頼されるものこそよく指導し得る。ドイツの政治は独裁ではない—利己的な根拠による—民意に反する独裁ではない。民意と一致せる政治である。

地域—血縁—伝^マ斗^マの相互作用 民族の運命。

ドイツ—血液と土地 人間と土地の相互作用。

形成の力—森、河—畑、街道—住宅地。

土地に一定の相貌をもてる人間の力。

国民社会主義独逸労働党。綱領は時代の綱領。時代の与党。

大衆の昂まる不満によって党を存続せしめんとする目的の為に新條項を提出することを排撃する。

国家は先づ公民の職業及生活を可能ならしむる義務を有す—政治、7万人夫々所を得せしむ—政治の要諦。

公益を阻害するものを徹底的に弾圧す。

不当金利利得者、奸商等はその信仰、人種の如何を〔。〕

午後はドイツ大観をよむ。河上丈太郎、平野学に手紙する。父にはがき書く。深川の同志主として今野の關係にハガキする。之で深川で送別会に出席した同志には一応通信した理由だ。船に外国金の調査申告をなす。

4.45 motion picture (men must men)。7時40分 dinner Cherbourg にて降りる人ある為に今日は背広で行く。然しタキシードを着せる方々多し。

夜は荷物の整理をなすし。ドイツ大観をよむ。得る所多し。ドイツ研究を滞在中行ふことの意を強める。明日は愈々フランスに着く。

8月7日 曇 風穏

今日はめづらしく6時半におきる。風呂を使って洋服を着れば船は既に Cherbourg に着く。甲板の上って陸をながむれば飛行機四、五台飛び来る。フランスの陸は山上迄耕して居る。此の点亜米利加とは別な感じを持つ。Cherbourg を離れて

Southampton³³⁾ に向って船は走る。

Southampton 近くに至れば三哩沖合は金網を張って防備をかためて居る。之は昨年より始められたものにて戦争來を思はしむるに充分である。Southampton では長谷川君並に植村少将下船する。南父子我等四人見送る。異国の地に於ては同胞はなんとなく人なつこくなる。

Cherbourg には新聞を売りに来る者あり。London Times を買はんとせるが既に売切れ Southampton にて Times を買ふ。Price は1/2mark で余り安くはない。1時半食事 Passport の検査に応じ、後ドイツ大觀をよむ。

Times は大島駐独大使と白鳥駐伊大使が日独伊軍事同盟に関し会談をなしつつある事を報ず。

【欄外】

戦争におびへる英国民が金網を張っての対策

東亜新秩序は極東にその權益を有する否極東を植民地化しつつある英国の駆逐より開始されねばならぬ。それは必然に世界新秩序建設の大理想の下に行はれね(ば)ならぬ。その事は、欧州に於てゆがめられたるベルサイユ体制を打破して世界再建に戦ひつつある独伊と結ぶは当然である。日独伊軍事同盟の締結はおそきらひもある。且、英仏ソは軍事同盟を結ぶ前提として作戦計画に就て會議を進めつつある時当然で^{ママ}なる。

船は England 海峡を England に沿ふて走る。海は穏かだ。いささか霧を見るは遺憾、然左側に白浜が見へるその光景は美観である。丁度日本の瀬戸内と云った感がする。

Mr. Chamberlain — House of Commons

極東に於て日本を打つには軍備が足りない。欧州には優秀な軍隊があるが。

【欄外】

New York Times、Herald ヘラルド、その他、London Times、Japan の記事を満載する。日本の偉大になる姿と記録するものである。

ドイツ大觀 党と国家 Doctor シュトツカルト

Prussia 内務次官

党と国家の統一の為の法律

33) 原文では Southampton。以下同様。

統帥万歳—— E (v) viva il Duce

総統万歳—— Heil Hitler

ファシズム——国民社会主義

労働の生産性——民族の生産性

※荷物を Berlin 迄 4 ツ夫々依頼す。8.5RM とられる。Room Service³⁴⁾ に40RM Dinner Room Shared³⁵⁾ 外 60RM。8時4人会食する。ドイツ葡萄酒を飲むが非常にうまい。食事後、北氏と話合、Deck を散歩す。明日八時—九時 Bremen³⁶⁾ 着の予定。

【欄外】

Wine の集めたものを呉れる。よくそろへたものである。

8月8日

曇時々ニワカ雨あり Bremen 9AM
Berlin³⁷⁾ 3.15PM

Bremen 港より Bremen の町市迄は約一時間半港より Bremen 迄は Service³⁸⁾ をやる由である。汽車の南側は一大平原にて何となく東京の郊外を思はしむるものがあつた。

Berlin に着けば大使館の宇佐美参事館^{ママ}、杉浦書記生出迎へて呉れ、Hotel Esplanade³⁹⁾ に泊す。Berlin に於ける一流旅館。約20mark 以上の所であるとの事。部屋は非常に居心地よし。

夕刻、大池、書記官と共に高田屋を訪ねて土産物を見、泰東を称する所にて支那料理を食し、後大池高田と私の三人にて散歩し夜の Berlin を見る。何となく落ちついた町と云った気持する。亜米利加には延びゆく姿を見たが欧州に着いて Berlin、Germany を見て、亜米利加の感じとは正反対の感を得を得た。

着後、北氏旧き友に電話をかけられたが、ドイツ語はウマイものだ。

34) 原文では Sihward。

35) 原文では Shard。

36) 原文では Bermen。以下同様。

37) 原文では Belrin。以下同様。

38) 原文では Sirvice。

39) 原文では Espronade。

【欄外】

税関は何等の調査なし。非常に親切なる態度を以て接す。何だか亜米利加から来ると親み深き所に来た感じがする。南博士の御子息訪ね来る。

8月9日 晴

起床8AM。船田大池君と共共に、食堂にて食事を済ませてたが、亜米利加の食物とは大分相違がある。持ざる国と云った感を抱かせしむる。食事後一休して、四人揃って12時に大使館を訪ね、宮崎参事館より種々話を承り大島大使に面会す。

大島大使は、大島健一将軍の御子息にて軍人を退役されて外交官となられ、在独5年有余、[]日独防共協定締結の立役者であり、熱心なる軍事同盟の主張者である。亀井氏の紹介状を渡す。ドイツの実情を聞くと共に国内事情を話す。

後、同行して日独親善の会に出席す。日本訪問の新聞記者団の団長として行かれた[]氏⁴⁰⁾が帰ら[れ]たので歓迎を兼ねた食事の会と云ふ。集る者約百余名。仲々の盛会である。老婦人の側に席を占めたが、語学が出来ないので Do you speak⁴¹⁾ German? No, I speak very little English. をやったが所、英語で話された。ても意味が分らないで閉口した。北氏、兵士に話しかけたが何等答へず、謹[カ]厳な体度で直立不動の姿勢で、随分勤務の勤勉振が思はれる。

会は団長から報告があつて食事をなしたのであるが、食事は非常に簡単なものである。Hitler 猯[カ]下に協力す国民の姿を思はしむる充分なものがある。

今日は夕食を久し振りで日本食でやることに決定して東洋館に行く。すき焼を食べたが、久し振りの日本料理満腹した。肉のおかほりを要求した所が統制があると見へて豚肉を出した。同じ鍋で牛と豚を共ににて食べたが外国でなければ見られない風景だ。此处では日本新聞を見ることが出来たが、国内は排英運動が猛烈に展開しつつある事を報導して居る。内田前鉄相一ヶ年の執行猶予になつ[た]事を知る。

食事後、所謂東京の銀座通りと云った所を散歩す。Coffee を飲む所が多数あるが、すべて道路で見へる所にある。亜米利加人が歩きながら物を食べるのと、人の見てる所で coffee を飲む習慣は、一寸日本人では躊躇する所と思ふ。

【欄外】

夕食前、市の中央を散歩し、伯林大学を見、無名戦士の墓を訪ねる。1914-1918

9時 PM. 宿に帰つたが、北氏が Keller 穴倉に Wine を飲みに行からと云ふので一所

40) フェルスター氏?

41) 原文では speake。以下同様。

に行って見る。穴倉の中にある飲場だが、仲々知識階級の連中が来て居るらしい。古いブドウ酒（1920）を二本のむ。代金は一本16m余。仲々高いものだ。それから北氏と共に二ヶ所程飲んで歩く。酒は Berlin はうまい。

然し、戦ひつつある祖国の姿、我等の任務を思へば、余り飲んでではならぬと思ふ。Berlin の町を見て、TOKYO も決しておとらぬと云ふ気がする。

親善の会の席上、東京の記者〔 〕君あり。麻生氏しばらくと云ふ。俺は外国迄来て麻生氏と間違へられるかと思った。

秋定君⁴²⁾の紹介状を寺本君に渡す。亀井氏よりの紹介状を日独協会のツァーレ氏に渡し、Oslo より帰伯後一度訪問することを約す。尚、此日大使にドイツの施設、党、組合等を視察するに就て便宜を与へられる事を依頼す。

8月10日 晴

8.30AM 起床。今日は朝食を抜きにして、正金銀行、三井物産を訪ね、宿に帰って雑務を整理し、1時大使官邸に於ける大島大使招待会に行く。サロンにて国内整備一否時局に対応する新政治体制、実状、三国同盟の事に関して意見の交換を行ひ、非常に得る所あった。

大使は欧州の政治情勢に就て

- (1) ダンチヒは直ちに打つまい。
- (2) ドイツとロシアは宿命だ。 German と Slav⁴³⁾ 民族
- (3) ウクライナ問題は日本が東洋でロシアを打つ時。
- (4) 実力行使する背景なき外交は修正さる可きである。
- (5) 内政と外交の一致
- (6) 日独伊防共協定は明治維新の様なものである。
- (7) 英国と対立しながら米と仲よくしようとする事は不可能。
- (8) 軍事同盟を結ぶ事が戦争の危機を避ける点。
- (9) 国内政治の推進力の再組織の用がある。
- (10) 政党の無力。

種々の意見の交換をなし、日本料理を御馳走になって、5時宿に帰る。garden に於て coffee を飲む。夜は明日愈々午後9時30分 Oslo に行く為（事務、荷物の）整理をなす。

10時 P.M. 寝に就く。9日の Herald に社大党の軍事同盟促進の進言書を出した

42) 秋山定吉のことと思われる。

43) 原文では slave。

Newsを見る。前述の如く、日独伊同盟、東亜新秩序建設の必然の要求である。一日も早く成立さすべきである。

8月11日

北代議士におこされて起床。食事をすませて中管に北、大池と共に行き Sweden 行きの鉄道切符を受け取る。三菱商事に渡辺支配人を訪問種々意見の交換をなす。渡辺氏は先きに米国に居りし人。今回の異動で高橋 (New York) [] (London) と共に十二月頃帰国との事である。昼食を日本人組合倶楽部にてなす。亀井君からの伝言を綾井氏に伝ふ。午後は荷物の整理なし、二個を Hotel に預ける。

6時半頃北代議士と共に日本人会にて食事をなす。久振りにて鰻井に舌つづみを打つ。うなきはうまい。8時に Hotel に落合ひ、9時25分の Berlin 発の列車にて Sweden に立つ。AM3時頃になって汽車は船の上へのせられ、海を列車と共に渡って Sweden に入る。

8月12日 晴

列車中、朝食昼食をなすが食事が非常にうまい。ドイツから入るとがらりと異なる。ドイツ列車中にはマルクは持たないか?ときかれた。ドイツでは出る時も入る時も 10 mark 上は持てない事になって居る。為替管理は仲々むづかしい。

Sweden は $\text{£}1 = 19.35 \text{Crona Ore}$

3時56分に Stockholm に着けば栗山公使並に尾崎君出迎へ下さる。Grand Hotel に泊る。Ticke [t] にて送った荷物を porter に取りにやれば宿帳と鍵を持参せよといふ。仲々やかましい。

一休して6時より尾崎君の案内にて市内を drive 見物す。岩の上の市であり、水の上の市であり、清礎と云った感がする。パルプの材料を日本に輸出す。藤原銀次郎氏寄贈の茶室がある。王宮、議事堂殿 [カ] 閣、市役所等宿より一望の間である。

夜は8時より栗山公使の招待会に望むが四人の同僚の外に船田君、白利義大使の栗栖氏⁴⁴⁾の御嬢さん公使在ベルギー公使加はり、談論風発久し振に議論をたたかはず。

【欄外】

バルーの公使の御嬢さんと一緒に来られたよし。

マグロの刺身を久振でたべて、日本食の美味に日本を憶ふ。飛行機にて我々の為に

44) 来栖三郎。

コペーハーゲンより取りよせたる由。御好意感謝の外はない。酒はビール（特別）、日本酒（二年前に持参のもの何等のかほりが無い）、Old Fine〔カ〕といふ whiskey⁴⁵⁾。152年前のもの。又ブランデーを飲む。従って話は益々はずむと云った調子で遂に大きな声で議論をする様になり、いささか無礼講となった。何か相済み〔ぬ〕様な気がする。

公使館は嘗つて巴里で自殺した燐寸王の所持たりしもの。館内支那公使館あり。一軒すぐれば露国公使館コロンタイ女史が居る由である。当日は亜米利加の将来に就て議論大にあった。

【欄外】

フランス公使館

8月13日

今日も北代議士におこされて8時におき、食事を済ませ、平の君、阿部君、川俣君、磯崎君、松永市会議長吉田得三君等々へ夫々手紙を書く。

船田氏、腹を痛めれて、何となく気すすまぬと云ふ。1時尾崎氏の案内にて歴史博物館、S——に古き建物、音楽堂を見て、食事を水のほとりで取る。

船田氏、気分悪く宿に帰る。我等も食事後宿に帰り、亦手紙を書き、6時三十五分公使の迎を受け、郊外にて食事にdriveして車Restaurant⁴⁶⁾にて食事をなす。Sweden（スカンジナビヤ）特有のエヒル〔エールカ〕でビール、酒（ウオカー）を飲むが非常にうまい。8時に公使邸に帰り、亦種々意見の交換をなす。

Swedenは立憲王国にて社会民主党が政権を取り、社会政策は行きとどいて居る。労働者も1ヶ月300円内外、丁度日本の勅任官三等位で非常に向上して居り、此の国で一番札なのは工場と病院。死亡の平均年齢は六十才。農業と鉱業。銑鉄は10億噸。6、70%ドイツ、英国に輸出す。

【欄外】

Sweden Norway Denmark

中立国として北欧一角に頑張って居る姿は研究すべきである。更に国王等が居り立憲王国である。欧州は憲法を停止せる国が多いが立憲国として発達して居るはSweden、英仏、デンマーク、ノールウェイ等々である。亦日本にはパルプを輸出す。

45) 原文では whisky。

46) 原文では Reastlant。

急流の海にそそぐ所、パルプ工場、鋳山は Stockholm より約自動車にて2時間北極圏内にありて、野天堀である。民族としては優秀である。亜米利加にて移民には歓迎さる。

農民は人口の37% 他は労働者。女中が払底して居る。国で法律で規定して身分を保障しようかといふ議論がある。一人一ヶ月150円。タイプライターは250\$位。

公使は今一度来て Sweden を見ろといふ。デンマークノールウエイ、三国は兎に角優秀な国民である。此の国へは賀川さん〔の〕様な人に来て貰ひたいといふ。一度、外務省に交渉したが、本人が断ったといふ（国民使節）。

※亜細亜主義といふ事は、ギリシヤを中心として日の出づる国をアジアと云ひ、日の没する国を欧州と云ったのに起原を^マ発して居るのに、日本にはアジア主義をと^マなへるものがある。日本のアジア主義は極東主義である。大に考慮すべきである。此の点は修正を要すべき点と思ふ。

ブロック経済※我等は最悪の立場に於てあらゆる計画をたてて——ブロック経済その上に利用出来るものは利すると考ふ可きである。

オスローの会議より乗車券をおくり来る。

8月14日

[本文空欄]

8月15日

[記載なし]

8月16日 A.M.11

Hamilton Fish The Peaceful Settlement of International Disputes。

新決議をなす。彼はアイソリニストデアルが政治的にされた民族の為に新たなる国を作つてやる必要がある。それが為には W.S.A. は最大の努力を拂ふと説く。彼は本会議に出席に先だつて Rippetrop に会見して飛行機で Oslo に来たのである。

8月17日

会議にて察知される事は欧州各国が戦争におびへて居る事である。17日午前の会議に於て Hamilton Fish によって欧州強大国 Great Britain、France、Germany and Italy に対し三十日間の延期する決議案が上程される。彼非常な雄弁を以て説明すれば演場拍手之に^マ対し Norway Hamlsø 意見をのべれ之亦非常な人気。何れにしてあらゆる努力を以て戦争より自からを解放せんとする努力が伺はれる

Hamso —彼は English を以って演説したが雄弁家である。

8月18日

[] に北氏の似顔出る。亦婦人記者北氏を来訪される。先生演説。

8月19日

19/8 1939 10.AM。

本日はダンチヒ問題を中心として欧州政界の危機が伝へられ、Hotel にて朝食の所にもその話がかはされて居る。

ナチス大会は9月2日から開催される。Hitler は如何なる手を打たんとするか？欧州各国民の眼は此処に集中されて居るのである。ドイツは果して欧州の覇権を握るか？我々は廿二日朝起って Dantige に行く。欧州のは如何に展開するか？

8月20日、21日

十九日会議終了して、其日午前九時五十五分北代議士と共にかへる。申込者四百七十名、三班、我々の班百〇三名。Likke 氏指導。

【欄外】

Denmark の上院、Johansen、銀狐、73才、奥さん69才。

エジプトの反政府党の首領、英国仏国のデモクラシー、シリアは王国となす別の Colony。水力の開発英国が邪魔する。日本を見、日本の機械を入れたい。

8月22日

22/8 1939. 11AM le Oslo. 9PM arr Stockholm with Mr.Kita. Grand Hotel.

車中ハンガリーの上院議員並に同伴者あり。America High School Teacher あり。北代議士大に語る。Giete。

【欄外】

City Hall — Stockholm

City Hall — Oslo

[両シティホールの絵柄あり]

8月23日

[Grand Hotel の用箋張り付け]

8月23日午後1時栗山公使の招待を受ける。サバ、サケの塩焼、ナスのミン焼、キウリモミ等々日本味を出して非常にうまい。

[ストックホルム市内の地図張り付け]

Hitler はロシアとの通商条約を発表すると共に独露不可侵条約を発表す。此の事の世界各国に与へた影響莫大なものがあり日本に於ても種々の与論がおこつて居ると信ずる。英外交の失敗である。Hitler の□□を思はしむる。大島大使は夜中におこされたとか伝へらる。

日独伊防共協定に就ても論議が出ると思ふ。日本に於ける強化(協定)派は如何に動くか?

公使はこれからダンチヒ行は不可能になるかも知れぬといふ。然し私共は行くだけ行って帰らなければ亦御厄介になりますと云つて6時尾崎館員におくられ舟の人となる。

【欄外】

24/8 晴。Hitler Danzig 乗り込んだとの事彼のやる事亦機敏である。

Oslo, Stockholm, Helsinki 共に Grand-Hotel。

1940年はオリンピック大会が開かる村社、金、孫等運動選手が非常に有名である。

8月24日

7.AM get up 8.30. Breakfast. 島と島の間(丁度瀬戸内海を小さくした様な所)を船は静かに走つて4.PM. Finland の Helsinki に着く。Sweden 公使館より電報を打つておいて呉れたので杉下公使並に泉館員出迎へて呉れる。到る処の公館が好意を以つて迎へて呉れる感謝の外はない。Grand Hotel に泊する決定し、Hotel にて杉下公使と懇談す。Finland に就て得る所多し。

【欄外】

長く居つた館員の送別会ある由にて公使帰らる。

Finland は一院制で大統領制。議員総数200名。Fasist 8名あり、愛国国民党 Anti-Russia 民主党、農民党、急進党、少数農民党二名、女代議士16名。すべて女がよく働く。それにしては女代議士が多い。

夕食後散歩する。町は Oslo よりはるかに優秀な気がする。亦物価が安い様な気がする。途中三人の Finland 人あり、一所に Beer を飲めと云ふ。北代議士大にドイツ語にて談ず。三人の Finland 人は日本萬才を叫び亦我々の血の中にはモンゴリアがま

じて居ると云ふ。之に誇を感ずるらしい。11時帰宿就眠す。

Finland は外人に対して非常に親切である。船中に於ても一年間 England に留学したといふ娘さんあり、日本に来訪されたいふ米人あり、大に談ず。たがだんだんと言語が通じなくなって来ることだけは非常に閉口する。英語もドイツ語も仲々困難だ。

Finland にては £1 = 225mark

Sweden £1 = 19.35Crone

Norway £1 = 19.50 ヶ

Sweden、Norway は 1Shilling⁴⁷⁾ 1Pence

Major 1Shilling 2 ヶ

此の地方は Key のいらぬ国である。個人は非常に淳朴である。Norway、Sweden 共に書物を購入す。Scandinavia⁴⁸⁾ 地方は研究すべき地方である。Finland には日本品が多く入って居る。木綿製品だけでも約四百万円ある由。

今日独仏の不可侵条約を発表し、Hitler はタンチヒ入りを決行したとの事。

8月25日

晴 7.AM. get up 8時30分食事をすませば公使館より浦次郎君案内に來り先づ議會を見物す。Finland に來したる建物にて大理石よりなり立派なものである。Finland は一院制、大統領制にて

議會には、社会民主党85、農民党56、保守党25、Sweden 党18、愛国国民党 8、進歩党6名、少数農民党2、女代議士16名（仕事上は女が非常な勢で男子同様の仕事をなしつつある〔〕）。賛否を表示するには電氣を用ふる（America の州ギ会にある）。

後、博物館、美術館、1940年度行はるるオリンピックのスタヂオ等を見てオリンピックネクタイ、皮帶等をオリンピック選手 Nurmi（ヌルミ）の店にて購入す。オリンピックを前にして、此国はオリンピック為に亦オリンピックの為に非ざる為にと云ったスローガンで公債を募集してスタヂオ、道路等をつくりつつある。ホテルの建設も忙しい。スタヂオも約十万人を収容し得るものに建直して居る。塔（12階）も作って市の名物の一になりつつある。

後百貨店に至り小刀、材木ほり、年鑑等を購入す。1時 Grand ホテルに公使の出迎を受け一所に食事をなす。西山⁴⁹⁾ 陸軍大佐も共に座にあり大に語る。得る事多し。

47) 原文では Shing。以下同様。

48) 原文では Skanginabia。

49) 西村敏雄の誤だと思われる。

独露不可侵條約の成立 Finland の受くる影響等に就て——。

午後郊外を drive す。東西共に美し。午後7時より公使の招待に預り亦11時迄懇談す。

※英仏露軍事同盟の不成立。独露通商條約の成立。更に不可侵條約の成立はバルト海沿岸諸国に重大なる影響を与へ、此の條約にはドイツがロシアのバルト海にのびる事に対して一つの密約がありはしないか?と考へられる。従つてバルト海沿岸諸国の国は一寸動揺して居る形である。表面には出ないが。

8月26日 晴

6時 get up。8時食事を済ませて一休して居れば公使来る。公使の車にて船着場に行けば10時の出発に非ずして12時の出発と云ふ。それで公使館に至つて時の来るのを待つ。公使館にて日本の新聞をよむ。日独伊軍事同盟をめぐての国内に於ける夫々の意見を見る。且徳富蘇峰先生の総親和論をよみ考へさせる点が多かつた。亦久原派政友会の国民協ギ会案、新經濟政策、東亜国策研究会の拡大、片山、河上両氏の加盟等の記事に眼がふる。

公使は(1)来年のオリンピックにドイツとの話合にてドイツが費用を負担して来るらしいが独自で派遣して貰ひたい。(2) Finland は親日的で Finland 人の血には東洋人の血が入つて居ると云つて居るが最近では東洋人の血は混つて居ないと云つて居る。親切なる点はあらゆる点に於て外国人には親切である。宣^マ教使が5、6人行つて居るが帰つてからの報告は日本はよくないと云つて居る。ロシアに対して反露的であり本年夏には大学生よりなる勤勞奉仕団がロシアの国境を、堀をほつた。陸軍は毎年約2万七年とる。

12時出帆。4時 Tallin につく。Tallin は古き町。直ちに Taxi にて駅にかけつけ荷物あづけて、城、議會、Peter 大帝遺跡などを訪ね、6時 Bristol ホテルに小憩。食事をなし9時の列車にて Riga に行く。列車中にドイツ人あり。大にドイツの躍進する姿、Hitler の今回の行動に就て語る。実に躍進する事の喜び面に現れて居つた。

11時就眠す。二等寢台にて。寢台料金は約10 Krone。

8月27日

午前6時 Riga に着けば公使館、外務省留学生 [] 氏出迎を受け、Hotel Rome の人となる。午前は休んで10時より公使館に大鷹公使を訪ふ。公使は伯林に行つて昨夜帰つたといふ。そして御互に國際情勢の変化に伴ふ日本の立場に就て懇談す。

戦争の有無に就ては昨今の形勢は必然になるとも考へられたが米大統領が中に入ったので或はないかも知れぬと云ひ、議論をたたかはずしたが Hitler のやる事だからど

うなるか分らないといふ。然し、不可侵條約の裏には何かあると信ぜられる。

1時半食事の招待を受け午後は海岸地方を Drive する。Latvia 一面積は約北海道に等し人口220万都市である。

夜、小野打武官の家を訪ね日本食の招待を受け久し振りに満腹した。然も之は Latvia 人の料理であると。聞くだけでもよく覚へたものと思はれる。独ソ不可侵の何かうらがあるといふ事が今日の一致した意見である。

【続き——前頁欄外】

その内容に就ては分らない。Henderson 大使がロンドンに飛んで、亦復って Hitler に会ったと云ひ、国境は閉鎖されたと云ひ、極端な事がだんだん多くなって来た。

【頁欄外】

※大鷹公使（前青島）

※小野打中佐〔寛〕

8月28日 晴

7時 get up. 8.30 Breakfast. 10時より Thomas Cook に至り Poland ドイツの国境閉鎖に就其頼を聞く。今日六時の列車はたったが午後は分らぬといふ。11時に武官室に行く。電話で聞ければエスニアは国境を閉鎖したと云ひ、亦一線は不可能となり一線のみ大丈夫といふ。昼食を呼ばれて三時半 Cook に至って Pass を求むればエスニアの国境迄が行けぬといふ。明日は飛行機があるかも知れぬといふので飛行機を依頼す。

武官 Walso に電話をすればドイツが何を要求して居るか国民には分って居ない。上層部は知って居るかも知れぬと思ふが大に氣勢はあがって居るがどうなるか分らぬといふ。Riga にて種々事情を聞けばさく程、如何に進展するか分らない。然し Riga 市は割合に落付いて居る。

三国の軍事同盟の提唱、中立に行く種々の議論があるらしいが一寸不安にかられて居る。今日の夕刊は外交政策の転換に伴ひ平沼内閣の辞を伝えて居る。昨夜九時武官室にて日本からの放送を聞いたがともうまく入る。始めは音楽、それからプログラムニュースと云った様に行はれたが、ニュースでは三長官（陸軍）会議、更に近衛公、平沼総理大臣、池田清彬、宇垣一成の面会、阿部陸軍大将、小川郷太郎。池田氏は廿八日も物価委員会出席の為東京に留まる。池田氏、宇垣氏に面会する。政民両党の総裁が平沼氏を訪問したとか人の動きを通じて外交政策の転換に伴ひ内閣の総辞職が行はれると考へられる。

更に讀賣新聞の論説をよみあげて〔〕 今度こそ本当に日本の姿を知った。そして

誰もが期せずして一致した。挙国一致の行はれた事も今日程の事はいまだ嘗ってない。軍部も政党も国民は皆んな一所になった。これから総力を發揮せねばならぬ……」と放送されたが我ながら身の引きしまるを覚へた。

実際、亜米利加には通商條約を破棄され、兄弟と思って居たドイツには一寸裏切られた形だ。本当に日本は独自の姿になったのである。独自にたった時あらゆる国と対立して居るのだ。此処で本当に立揚らねばならぬ。日本の民の努力と団結力盛り上げる国民の力はすべてを克服して躍進してゆ〔く〕。いまだかつて味はなかったものを味って躍進してゆくのだ。

【欄外】

戦況を聞く。外蒙 ナモヘン〔ノモンハン〕一万九千退却せしむ。

※英仏露軍事同盟の不成立は、ロシアは「ポーランドにロシアの軍隊を進める事に反対したからであると云って居る」。ドイツは「欧州の状勢は此の道を選ばざるを得なかったのである一日独伊軍事協定が進展せざる以上斯くしなければ Danzig⁵⁰⁾、Poland 問題を解決することは不可能」。

※不可侵條約の背後には何か暗黙の約束がありはしないか？ (1) 大島大使が Ripentrop に会った時につき込んで聞いたがそれは聞くなと云って必ずしも否定しな[か]った。(2) ロシアに就て考へて見れば何等の利益なきものと結ぶ理由がない。だから何かある。西か南か タンチヒ？ コリドール？

※バルト海沿岸地区。

エストニア 議会。120万。自由主義反ソ

リトビア——大統領独裁。220万、リトビア人を中心として団体があって陸軍大臣が指導して居る。反ソ。

リシアニア——大統領 議会を停止。270—300万。

軍事同盟を提唱 (中立を宣言す)。三国は、英国、ドイツの勢力が大分入って居る。共産主義におびへて居る事はひどいものである。

※戦争か否か事態は益々深刻になってゆく。トーマス・クックにて Norway 人あり。我々が Berlin に行くと云へは何故行くかといふ。外国人は Berlin からどどんきにげ

50) 原文では Dantage。

て居る。Riga、Stockholm に行つてそれから Bergen に出て New York、San Francisco を経て帰れといふ。欧州の戦争に対する脅へ方は実に猛烈なものがある。然し事態は戦争必然性が強くなってゆく。

夜は公使の招待会に行く。明日飛行機がとべば行くし、とばなければ取り止むを得、Stockholm に出て形勢を見るより外に方法がない。よい時に渡欧したと思ったが時局は深刻になってゆく。帝国政府は在欧州日本人に命令して靖国丸の出帆をのばして多くの同胞を祖国に帰した。

欧州に渡つて約二十日だがその間に欧州の地図は変わった。タンチヒの独立（ホルスター）によって更に Poland を中心に新たたらんとして居る。トルコ、キリシアは不可侵〔條〕約の成立によって英国との同盟を破棄し、英国はルーマニアにベルサイユ條約の時取った土地をハンガリーに返却すべしと勧告しハンガリーは〔 〕に不可侵條約を申込みことはられるなどバルカン小国の動揺亦是げしきものがある。

Latvia —書求める、欧州連盟、フランス、ブリアン。

8月29日

飛行機にて Berlin にとぶ。中管にて船田大池君に会ふ。両者は明日 Copenhagen に向つて出発するとの事。Esplanade に泊す。

8月30日 晴

昼、鉄道省出張所の招待を受く。志鎌事務官は、21年の三中卒業生正に同窓。然も砂町亀高に住せし由、小学校の同窓でもある。大に飲み談ず。

午前中大島大使を訪ね、宇佐美参事官と共に会ふ。引上の事は命令かといはば、勧告であると。且或は戦争に訴へずに解決出来るかも知れないと云つて居た。

ロシアとの不可侵條約に就ては、21日おそくりッペンが会ひたいと云ふので会つて見ると止むを得ず不可侵條約を結ぶ。諒解して貰ひたいと。それはいいとしても、日本もロシアと協調する様にすれば更にいいではないかと。不可侵條約の成立はいいが、日本にすすめる事は余計なせつ介だと憤慨して居た。

8月31日 晴

島田君、〔 〕医師、北代議士と共に夜ルッターケラー〔カ〕にて飲む。夜、市中にて（赤十字）看護隊の行進を見る。何時も演習するとの話だが何だか戦争が近い感をいだかしめ、市民の中にも緊張の色が現れて居た。

川辺少将⁵¹⁾に會ふ。ドイツの行為を憤慨して居られたが八十余回に亘る五相會ギで決定せざる状況を亦大に語られた。日独伊軍事同盟が出来て居れば、ロシアと⁵²⁾ドイツは不可侵條約を結ばなかつたであらうか二説あつて一致せざるも、ドイツは今回の行動は止むを得ざるものにして、出来て居ても今回の行動を取つたらうといふ人が多い。

ヒトラーが戦争をさけて Poland 問題を解決する為に取つた行動であるが、これは Hitler の誤算だと云はれて居る。

9月1日 晴

今朝は昨夜鐵道省の島田君、[] 君、アフガニスタンに居られたと云ふ醫師の方、北代議士とルッター-Keller にて飲み過ぎたので一寸朝寝した。起た時には何となく宿の人々顔にも緊張せる気持が伺はれる。聞けば昨夜三時に議會を召集して今日議會が開かれ Hitler⁵³⁾ の演説があるといふ。

十時にラヂオを通じて Hitler の雄弁が伝はつて来る。各人は井戸島の所に集つて居る。私にはドイツ語は分らないが Hitler の力強い声、くぎり毎におこる万雷の拍手、彼正に雄弁家だといふ気がする。そして彼は今までの Danz [i] g 問題、コリドール問題を報告し更に対英、対ソ交渉の経過に就て報告したの後、自分がすべてをなげすめてドイツと國民の為に働いて来た頃を語り、自分はこれから戰場に行く、自分なき後は Göring⁵⁴⁾、ゲーリングの次は Hess、その後は勇氣あり行動する者を國民自身で選べと悲壯なる決意を述べられた。

形勢益々深刻になつてゆくことを覺へせしむる。外国の新聞が来ないからよく分らないが英國も今日態度を決定するらしい。自分は宿にて荷物の整理をなし形勢急転の場所(合カ)島田君に預けるものをトランクにつめ、なる可く簡単なものとしてそれをもつて宿を安宿に變つて Berlin にて世界の動く姿を見たいと考へそのつもりで居る事。

二時頃正金に行き、大使館に行った北代議士か歸つて来た。島田君と共に。—そうすると戦争だ—早く用意をし、汽車は三時二十一分だ [と] いふ。形勢の悪化を思はしむる。ドイツは全国境を通じて侵入し飛行機も大活動を開始したといふ。自分は Berlin に来て Berlin を見ずまだ頼まれた仕事も終つて居ない。然し形勢の急転により、Berlin にとどまつて人に迷惑をかけ、或は心配をせしむるのも悪いと考へ、出る事に

51) 河辺虎四郎のこゝ。

52) 原文ではロシアト。

53) 原文では Hittler。

54) 原文では Galling。

決心して荷物四個を以って停車場に行く。

停車場は非常な人混みだ。然し1 Klass の切符があつて乗つたが、一等、二等、三等の区別なく非常な混雑だ。窓から荷物を入れて席を取つたが外国人も頑張つて色々文句を云ふ。中には私の Rain Coat を自分のだと抱へ込んで座つて居るあわて物もある。日本なら頑と一つやりたい所だ。Deplomatic の Pass Port を以て居ては、どなる事も出来ず、席の点ではケシカ〔ラ〕ンと云つたが後は我慢する。

同じ列車に、前田君、芦名君 (Kelun-ケルン) にて民族学を研究され居る人。ウインで工学研究して居た、前田君 (大正三時〔年カ〕早大卒)、船成 (日本無線) の同胞あり。御互に協力して荷物など整理をなし、8時頃 Hamburg に着く。

Hamburg にては領事館の伊東君が出迎へて呉れ、駅前の House モーテルにやとす。領事館に行き総領事、有吉郵船社員等と打合せ。河内にて日本食を喰う。Hamburg の町は灯火管制にて真黒だ。建物の関係から日本の演習の時より見事なものだ。正金の方も河内に御出になって種々斡旋して呉れる。私もドイツで荷物になるを恐れて Super Six を買はなかつたのだが此処〔に〕買ひ求め様と思つたが、河内並に日本人の知つて居る写真屋は動員され亦他のホテル迄行つて見たがとうとう駄目だった。

宿に帰れば更に愛知時計の方外一人の方が亦やつて来た伯林から——愈々形勢の悪化を思はしむる。亦ドイツでは外国のラヂオを聞く事を絶対に禁止し、亦きいたものは死刑にするとの法律を出したといふ。Hitler も思ひ切つた事をやると思つた。

英国では今日議會を開いた。体度を決定すると共にドイツに対し Poland より退却すべし、それでなければ我等は義務を遂行すると通知し、十八才―廿才の青年を動員すると共に子供は全部地方に避難することになったといふ。仏国も総動員したといふ。問題は伊太利だがその体度は不明だとの事。一説には伊太利は皇太子を第二軍総指揮官として大動員を行つたとも云はれて居る。

灯火管制の眞黒な町 (ドイツ第二の都会百五十万) に一夜をあかす。おも^マべ^マは九月一日、二百十日であり、大震災の記念だ。

9月1日 晴

Hotel Reichshof にて夜をあかして8時30分キール行の列車の人となる。途中乗換だが荷物の多いに閉口する。然し一行8人に増加したので助合つて非常にうまく行く。国境に至れば私共の旅券が外交官扱になつて居るので一寸引かつてドイツの官吏に一寸調べられる。所が International Parliament Union に来た者たる事が分つて問題なしで Pass する。

今度は Denmark ではたやすく Pass してコヘーハーゲン行の列車の人となる。多くの列車中だ。一列車のみにて他は亦乗換をせねばならぬといふ。厄介な事だ。途中

一回乗換連絡船に乗り、亦列車という理由で8時30分コペーハーゲンに着き、Grand Hotel に落つく。

【欄外】

連絡船中食事をすます。デンマークの軍人も途中乗込む。

コーペンハーゲンはデンマークの首府で百万の人口あり。北欧の巴里の称する所である。仲々立派にしてにぎやかな町である。デンマークは人口四百五十万であるがその中四分一は都市に集中して居るのだ。

Hotel にて愛知時計の方が Stockholm の栗山公使の所に電話して靖国丸の動静をただした所、四日に多分出る事にならうといふ。私と北前田氏は町中を散歩し十二時頃寐につく。今日は非常に忙しい一日であった。

9月3日 晴

今日は昨日のつかれか、一寸寝坊をした。おきたのが10時半頃だ。同僚四名は Bergen に向け6時半に出発した。食堂に至れば吉田（兼松商店）、芦名君、北氏と談話中食事をして居ると11時頃 waiter が耳打して愈々 England が宣戦の布告をしたといふ。

愈々戦カ？日本の為には神風だと云って杯を奉^{ママ}く。直ち私は北氏の Room を訪ね、語れば、之亦国家の為に之で愈々東亜新秩序建設に邁進出来ると心から喜ぶ。此処二、三日は此処で天下の形勢を觀望する。前田君から借入した辞書をたよりに London Times を読むが、英語を勉強せぬ自分にも鋭くはかる様な気がする。

夜 Moving を見る為に散歩に出たが10時から始まるといふ。実におそいといふ感じがする。途中北氏が英語に [て]、通りすがりの人にデンマークの号外を示して英語に訳して呉れと頼むと、日本語をシヤべるデンマーク人あり。七年間公使館に居ったといふ。明日、Grand Hotel にて会ふことを約して分れる。

今日は、伯林より Hamburg を経て吉岡女史来る。夜御会ひしたが、日本の紋服にて元気なものである。あの姿で欧米を押し通したらしい。実に日本的だ。吉岡女史には尾池〔秀雄東京市〕産業局長の結婚式の時に一度御目にかかった事があるので、尾池君の御話を申し上げれば既に赤チャンが出来た由。尾池氏は五十余才と思ふが実に元気なものだ。

今日から愈々欧州大戦争は展開される。日本に取っては正に神風。今の機会に我等は全力をあげて東亜新秩序完成の為に努力せねばならぬ。

【欄外】

出発の折、英語、ドイツ語の辞書一冊もたずの旅行、実に乱暴だった。

9月4日 晴

7時に get up。9時に食事を済す。北代議士、吉岡女史等は名誉総領事を訪ねる。私は宿にて昨日約束した。ベルクセン氏を待つ。11時氏来る。氏は、スコットランドの沿岸で英国船がドイツの潜水艇にや〔ら〕れた。船客は1400名、1000名は助ったが、400名は不明だといふ。その中には American、Canadian⁵⁵⁾ 等約二百名居るから America の感情が非常に沸騰すると思はれる。亦ギリシヤの船が魚形水雷にデンマークの東方でかかった。

亦ニースは、近衛公の新通商條約締結に渡米を通じ、亦日本の対露問題に関するニースがあり、白鳥大使が帰還を命ぜられた由である。昼食を彼と北、浅沼と会食し、Cook に至って船の件につき交渉す。

午後総領事の事務員至りて旅券の事にて相談す。私と北代議〔士〕、吉岡女史は Diplomatic⁵⁶⁾ であるが、コーヘンハーゲンに避難せる者の中には学生あり、旅費がない。従って亜米利加領事の査証を取る事と困難となり、全員にて相談。Hamburg の有志に電報を打つ。亦、Stockholm より電話有。明日夜、平田書記官が出張する由。それから具体策をたてる事になった。欧州には亜米利加よりの旅行者約1万五千人あり。非常に船も混み合って居る。

衆議院議長宛にコーヘンハーゲンに新状勢を研究中、19日の船に渡米する旨を電報する。日本では多くの同僚が心配して居る事と思ふ。然し、私に取っては深刻な経験である。此の経験の中に自分をきたへてゆく事が最もよき修養だと信ずる。

夜、ロンドン Times を研究する。

【欄外】

今日から私用の自動車を禁止してタクシーのみになった。油の統制と制限を行ふ。

9月5日 晴

今日は九時に get up。写真機を買ふ。Super Six 何処にもない。仕方なしに Super Ikon (Carl Zeiss) を買ふ。い〔い〕か悪いかわからない。\$100、cook でおろしたが、差額を手数料に取ったらしい。

午後市内を散歩する。久し振りにて London Times Daily News 来る。夜は Moving

55) 原文では American、Candain。

56) 原文では Depelomatic。

を見に行く。Movings では Paris London の戦争準備の様子を News で知る事を得た。

9月6日 晴

九時起床。10時半総領事より来て呉れといふ。北、吉岡氏と共に行く。他に在丁邦人多数あり。亦 Sweden 公使館より平田書記官来り。避難者に就ては、旅費なき者には三等の旅費支給すると帝国政府より通知ありたる旨を通ずる。之にて旅費なき学生も帰れる事になった理由である。問題は米国総領事の査証問題である。我々も Sweden 入国の査証がいるとの事である。

1時開会中のデンマーク議会を傍聴す。亦 National Museet を見る。日本の外、亜細亜の品多数あり。教へられる所多し。

今回の旅行に二ついい事をした(今日迄)。先は Stockholm から Helsinki⁵⁷⁾ に行く船で Pond で支払った所が Mark でつり銭を持って来て計算が多い。其処で100mark 返却した。亦、今日2日から5日迄の支払に就て83、20Kr の要求に85Kr 16,800Kr の釣銭をおこした。それで15Kr Mistake ではないかと云って返却した。何れもこまかい事だが、日本が如何に真実で親切であるかを知って貰へると思つて何だかよい事をした様な気がして居る。

Peterson (船会社) 来つて、今回の渡米は1st Class で \$ 110、Turist class で \$ 80 負担して呉れろといふ。危険を冒してゆくのだからといふが、何だかつけこまれる様な気がして、いやな心持になる。然し欧州大戦の折には、中立国の舟も含めて4隻に一隻の割合でやられ居る。亜米利加は二十艘の船を以て米国人を引揚せしめ巡洋艦が守るとの事である。

夜は散歩する。Copenhagen に来て5日目だが、19日迄此処で籠城する結果になった。一ヶ所で長い様な気がする。London に行けないので、此処で135Kr 出して洋服を物にした。出来合で丁度いい。外套その他買って帰りたいが今度は大西洋横断、亜米利加横断で一寸予算が狂つて来た。然し得る所は多々ある。

Copenhagen も一寸朝夕は寒さ感する様になって来た。靖国丸は4日 Bergen を出た由。約250名位。

【欄外】

※市内要所には土ノを積んである。

9月7日 晴

57) 原文では Helshinki。

大分朝夕は寒さを覚ゆる様になって来た。今日、亦、伯林より三井関係の人々が来たとの事。所謂避難民も増カしてゆく。

9月8日 晴

一日 execution⁵⁸⁾ に出かける。夜、市内を散歩すれば、Warsaw⁵⁹⁾ 陥落の号外来る。Poland を片づけた Hitler は如何なる手を打つか？見物である。

Daily Mail⁶⁰⁾ によれば日本では Siberia 経由の旅行を禁じたとの事である。

9月9日 晴

London Times、Daily Mail をよむ。北一輝氏の支那革命外史をよむ。

9月10日 晴

相変わらずの宿屋生活。夜散歩中偶然 Senator⁶¹⁾ Johansen 氏 (Oslo で知合になった君) に会ふ。彼夫妻と共に National Scala にて Beer を飲む。

9月11日 晴後雨

Johansen の招待にて労働組合の事務所を見て Royal Yacht⁶²⁾ Club に昼食の御馳走になる。夜は Hotel の Salon に吉岡、持永、宮本、末永、北等集まり、大に戦局、ドイツに就て論議す。

9月12日 晴

吉岡、北氏共に夜飲む。北氏相変わらず気焰万丈。

9月13日 晴

相変わらずの宿屋生活。8時に get up して食堂に至れば、道路に Demonstration⁶³⁾ を行ふ一隊あり。何かと聞けば宿屋の前の Refa 百貨店のストライキと云ふ。賃金値上をやって居るといふが、実に呑気なものだ。今日も Air mail なし。新聞をよむを得ず。

58) 原文では excartion。

59) 原文では warso。

60) 原文では Daily Maile。

61) 原文では Saniter。

62) 原文では Yogt。

63) 原文では Demostlaization。

9月14日 晴

今日も新聞来ず。北氏よりドイツ新聞の記事を聞くのみ。ただ、今日も北氏の支那革命外史をよむ。

Copenhagen も夜は石炭の節約から自然的に灯火を統制して大分暗くなった。

9月15日 晴

秋深しと云った感である。今日も新聞来ず。宮崎君の東亜聯盟論をよむ。何物にも妨げられず読書するのも亦よいものである。

9月16日 晴

非常に寒さを加ふ。昼は読書。夜持永君（心理学研究者）北代議士と共に David の活動を見に行く。

今日は B.T 紙にて日ソ国交調整の記事が出、Berlin 電報はドイツ、Russia、Italy、Japan の結合が出来る様に放送さる。国際状勢の事は分らない。昨是今非か今非昨是か。昨日の敵は今日の味方。正に有意転変。

America Express にて Traveller Ticket 作り船会社に行きて、切符を買ふ。之で亜米利加を Pass して還る事になったが、欧州を見に来て見ずに帰る事は非常に遺憾だ。然し、Balt 海沿岸、Scandinavia⁶⁴⁾ を見た事は、小国に発達した Democracy、ベルサイユ條約によって出来た Estonia、Latvia、Lithuania 等を見、Danzig の上をとんだ事は之亦思出の一つとならう。

今日も相変らず、東亜聯盟論をよむ。

Denmark に於ける労働組合

Social Democrat、組織数 44万（人口 4 百50万）。歴史—1938（昨年）五〇年の記念を行ふ。Iron Union 4万、Copenhagen 2万。

失業登録を作って、失業者を世話する。oil の輸入困難を見越して、英国の戦争参加と共に統制を行ひ、private の自動車の運転を中止せる結果、150人か200人の失業者を出したとの事。1ヶ月1.90Crone を掛けて、手当支給を受ける Union が国家の仕事の代行を行って居る。

之等事は Johansen より 11th 労働組合の事務所に案内されて聞く。

64) 原文では Scanginavia。

【欄外】

Johansen は労働組合出身の上院議員で、上院ギ員は改選の際19名を議員の互選によるが、それで選ばれた有力者である。

尚、11th に養老院、産院病院等を視察す。養老院は Copenhagen 三ヶ所なり。約1ヶ所1000人を収容し、扶養者なき老幼者を収容して居るが出入は自由にてある由。

Denmark、Finland、Sweden、Norway は共に Democracy の国。且所謂中立国として今回の戦争にラチ外にあるが、Denmark に国籍不明の飛行機が爆弾を投下して、二人死し、十名傷いて居る。ドイツとの国境近くにて。

英国〔は〕三年間戦ふ計画を樹て居る。案外、戦争は長期に亘るかも知れない。Russia は Poland 国境に兵を集中する。不可侵條約の裏には Poland 分割が含まれて居るに非ずやの疑ひがある。

9月17日 曇 寒 日曜

今日は8時に get up して東亜聯盟論をよむ。外は日曜の事とて非常に穏である。

午後、London Times、Daily Mail 来る。11日、12日の新聞だが、久し振りで英字の新聞が見られるので何だか一寸明るくなった様な気がする。

日本に関しては、大島大使が伊太利に白鳥大使を訪問して懇談したと伝へ、白鳥大使は14日に日本に発ったとの事である。亦、阿部外相が英国に誠意あれば、天津会談を再開してもよいと述べたと云って居る。日本にては Poland 陥落後、何か外交的展開が行はるのではないかと観測がある様である。然し、南京陥落前の日支交渉と同じ様なもので、一度戦争となった今日、行く所迄ゆかぬと仲々平和等も困難と思ふ。

夜、national theater に Opela を見に行く。ワグナーの歌劇があるとの事だったが、役者病気の為に denmark の歌喜劇 denmark 語が分からないから閉口したが、その所作にて非常におもしろく感じた。Seala にて食事を済まして1時に寝につく。

9月18日 晴

8時にノックする者があるからおどろいて起きて見ると、北代議士が入って来て、愈々 Poland にロシアが侵入を開始したといふ。独ソ不可侵條約の裏には何かの密約があると感じたが、今ロシアの侵入を見て、分割の密約があった様な気がする。之でロシアもドイツも平和の為にやって来たとは云へなくなった。亦ロシアの戦争参加は必然に中立国に大きな動揺を与へ、ベルギー、Holand (オランダ) は二週間以内で参加する (英国側) のではないかと云はれて居る。

今日のドイツの新聞は満州国及外蒙古の国境問題に就てロシアと我が国の間に停戦

協定が出来、更に満州国及日本より二名、外蒙共和国、ロシアより二名の代表が出て国境制定委員会が持たれるかも知れぬと奉じて居る。ノマハン事件の終結を見るらしいが此の事件はロシアが国境を越えて約十里侵入したのを日本は七ヶ師団と満軍二旅団□□□□一旅団、飛行機七〇〇を以て対抗して之を退却せしむ事件であるが、9月15日現在の両者の地位で停戦する約束をしたと報じて居る。

ロシアの戦争参加は欧州戦争を大に拡大するに相違ない。亦、25年前の欧州大戦の拡大したと同じ傾向で拡大して居る。バルカン諸国は如何に動くか大きななぞである。ギリシヤの如きも食糧不足を生じ、肉が入らなくなったと新聞は報じて居る。

午後は一寸散歩に出る。長く居る為に Central Square に行つて新聞 News を見る事がたのしみの一つになった。

夜、北氏と共に Kine を見に行く。停車場内にあつて News のみを主材とせるものであるが、75crons にて格安ではあるが大したものがない。此の間迄は戦争ニュースがあつたが、統制されたい。ギリシヤには今回の戦争が始まつてから活動を見に行つて拍手を禁止し、且外交問題に関する批判を禁止したとの事。徹底せる統制振である。

Warsaw の陥落が近づいて酒匂大使等も Romania に避難したとの事。

×Poland は (1914-1918) 大戦中のブレストリスク條約当時の状況で分割されるのではないかと考へられる。

9月19日 晴

今日は七時におきた。二十一日朝に Copenhagen を立って、America — Sweden line で America に渡る事になつたのであるが、さて出発となると何となく心せはしくなるものである。

吉岡女史等は市立産院を見物に行った。兼松商店の上野君は Stockholm に出かけた。花谷、竹本、[] 君等は、飛行機で Holand に飛んで荷物船で日本に行つたらしい。

午後、愈々欧州を離るることとなつたので、東京の友人夫々ハガキを書く。東京を出てから今日で約二ヶ月三分の二であるがハガキはよく書いたつもりである。日本ではハガキは郵税二銭だが、欧州では約二十銭、非常な相違である。アメリカは4centsで、約十六銭。絵ハガキが約10sen、それで一本ハガキを出しても約30sen、ハガキの為に100\$位使用した。政治家たる事またつらいかなである。まだ印刷をして出さないだけよいのかも知れない。

統制 ロンドン 灯火管制 違反者に罰金
芝居 活動中止 カン

電灯をよけいつけたから罰金

伯林 外国の Radio をさいた為に銃殺
食糧の不足 食糧を掠奪したものの銃殺

ギリシヤ 前頁

日本の統制に対する処罰は軽い

支那建国 汪兆銘を中心とする新中国建設運動は10月10日、所謂双十節に行はる様にロンドンタイムスは報じて居る。1911年南京革命断行の日が10月10日。

日本 西尾大将——支那派遣軍最高指揮官
梅津中将 関東軍指揮官

【欄外】

Gripsholm

今日は13、14、15日の England News Paper 来る。之によればドイツは東はいいが、西部戦線は大分おかされて居るらしい。Brest-Litovsk⁶⁵⁾ (1915露独條約の出来た所) 之も陥落したらしい。

9月20日 晴

今日は七時に起きる。午前、午後市内の散歩と相変らず字引きだ。明日は愈々出発といふ事になるので船会社から荷物を取りに来る。Passport と錠を預けてやったが受取証が来ない。イギリスにても汽車のチッキに出しても受取は呉れないが、決して間違はないといふ。よく規律正しくなったものだと思ふ。

夜は肉食にも飽いたと云ふので、北、吉岡親子と共に Fish の料理を食べに行く。非常にうまかった。日本人には魚は適するらしい。帰途、街を散歩し明朝の早きを考へ11時寝につく。二十日も滞在して出発すると思ふとなんだかおいしいと云った気持である。明日は十人内外の同胞が一所になる予定。

Hitler の Danzig に於ける演説—— (政界日記)

65) 原文では Litovolisk。

9月21日 晴

6時起床。毎日朝寝坊をやって居てもいざ出発となると起られるものである。一切の出発準備を済ませて食事をなす。

9時に停車場に到れば、既に二、三の同胞見ゆ。宿の Porter が小さな荷物を持って来て呉れたが、旅行者は一個以上の荷物はいかぬといふ。チッキは昨日の五時迄とかいてあったから間に合はぬかと心配したが、特別の便宜でチッキにして呉れたが受取を呉れない。間に合ふかといふ心配が今一つ増へた。

汽車は10時7分 Copenhagen Station を start⁶⁶⁾ して海岸に沿ふて北走。11時頃 Helingburg に着く。そこで下車、船にて Sweden の Helsingborg に渡る。Denmark で Pass control、baggage control、更に Sweden にて control。小国の旅行もい (い) が、此の control には閉口する。

1時頃、Helsingborg を出発^マ。Sweden の南岸に沿って、Goteborg に至り 5時頃 Gripsholm 号に乗船する。久し振の乗客と見へて非常に混雑する。一等の休処^マにて休ケイすれば多数の同胞あり。明日はストックホルムより藤原銀次郎氏一行も乗って加るといふ。同船者約二十余名になるらしい。船中の食事はサービスが悪い。然し明日の出発を前にして今日の乗込む止むを得ぬかも知れない。

Room は141、同室者は北代議士、商科大学留学生大林君の三君。

【欄外】

Goteborg⁶⁷⁾ は造船業盛、亦 Ford の会社あり。理学博士鮫島氏同船。

9月22日 晴

8時起床。食事に至れば既に suite⁶⁸⁾ された後、日本大学留学生の柳沢君が交渉してやっと食事にありつく。サービスは悪い。Waiter は昨夜は一睡もしないところぼして居る。何時もがら空なのを今回は満員以上の満員だからやむを得ないと思ふ。

藤原銀次郎氏一行も来る。11時に愈々船は出発といふ事になったが、楽隊で Denmark の歌を歌ふ。日本を出る時蛍の光で送ると同じ様な光景。

船は Sweden の海岸に沿ふて島と島の間を通過する。非常 [に] いい景色だ。丁度新潟県ネヅミガ関⁶⁹⁾ と云った様な所だ。船中日本語の上手なオスリー一人に出会ふ。彼は独学だそうだが、話すも亦書くも非常にうまい。他にも二、三、日本語を話す人

66) 原文では starte。

67) 原文では Gottburge。

68) 蘭：閉じる、閉鎖する。

69) 鼠ヶ関は山形県鶴岡市。

がある。之から考へても日本の偉大になってゆく姿が直感される。その国が強く亦科学的發展をとげれば、ローマ字を使はなくても、赤エスヘラント語を使用しなくても、先方で必要に迫って知って貰へるのだ。第一の要件は強くなる事である。

午後ツーリストの甲板にて吉岡親子に会ふ。吉岡氏の御話によれば、藤原氏に会ったが、藤原氏は Europa 号でドイツに來たが、ドイツに入る時には既に陰悪な空氣がただよい、船長は全員を集めて通告すると共に、英国の近くを通過するのをさけて Norway よりを通過して飛行機、巡洋艦に守られ、二十九日 Hamburg に入った由。然も国賓として來られたのでドイツ外務省は柏林に來て貰ひたい戦争はないからと云はれたが、それを断つて今日迄 Stockholm に滞在したとの事。

ストックホルムはパルプ材料を購入にして居た關係上特別の關係あり。藤原氏が寄附した茶室、日本庭があり、その開園式を行つて來たとの事。老軀をひっさげて來て非常な經驗をしたものだと思ふ。

尚、同船中に南博士の御息子あり。丁度 Europa にて博士と同船にて Hamburg から Bermen に御出になって、我々の Bermen 着の時に御目にかかったのだが忘れて居て失礼する。三井關係の方は四人あり（南君—Hamburg 三井支店）夜種々話合ふ。

船は相変らず Sweden の沿岸を走る。実におだやかだ。月ありて一入の夜景をそへる。船は中立国の船 Sweden の船たる事を知らせる為に Sun-Deck には Sweden の旗を刷り込み Mast の旗には電氣を輝かして居る。

夜食後、南君より中央公論九月号を拝借よむが非常におもしろい(My Voyage 参照)。特に河野密君の産業報国会運動と日本労働総同盟の分裂なる記事を読み、止むを得ざる必然とは思ふが、之を防止し日本の組織労働者を打つて一丸して国策に協力出来ないのかと云ふ氣持がする。——我々の陣營も亦人なし。既成陣營を笑ふ理由には行か〔ぬ〕とい〔つ〕た氣がする。党がどうなったか非常に心配だ。

船は Sweden、Norway の沿岸を北上して Iceland 附近を通過して America に向ふ由。従つて何時つくとも確しないそう。ドイツの U-Boat を避けて居る様だ。戦争も愈々深刻に來つて來た。去る大戦中は700万噸の船をしづめたとかの話である。今回でも英国の発表によればドイツ船百余万噸を抑留し、ドイツは17万噸の船を既に沈めて居るとの事である。

中央公論がおもしろい為に時間を忘れてよみふけて1時頃寝につく。よくねむられる。

（全世界はイデオロギーや理論を以つて解決する事の出来ない。）
（すべて現実を中心にして動いて居る様な氣がする。）

藤原銀次郎氏との動向山本氏に聞けば船田代議士はシベリア經由で歸る為に Finland Helsinki に行かれた由。うまくかへられたかどうかしら。大池君は何処を通

過して帰ったか分らない。

【欄外】

Sweden、Norway の境と思はるる所にて小船来て何か連絡？ 検査？ をなす。

9月23日 晴

7時起床、風強。鳥打〔帽〕を被って Deck を散歩する。船は相変わらず Norway の沿岸を Pass して居る。亦 Bergen には程遠いらしい。今日一杯は沿岸を走るらしい。Norway の沿岸は岩亦岩にて人家などは見当らぬ。何となく亜寒帯と云った感がする。

Radio で昨日はドイツで Norway 船を二隻捕獲して行ったとの事——沈めなかった。何だか——戦国時代——になって来た。9.30AM Breakfast。

12時 Norway Houngsoug を通過速力は1時間17浬〔哩〕の速さである。3時——Life Boat の演習。3.30PM 切符の調べ。4時から Moving Picture を見る。今日も相〔変〕らず Norway の沿岸だが景色は何とも云へぬ程きれいだ。風は一寸強いが陸と陸の間を走ってゆく。亦附近の写真を取る事を禁止して居る。如何なる意味か。

夜午後西へと走ることになるらしい。非常なる警戒振である。今日はハガキを書く。十時半就眠。

9月24日 晴

7時起床。今日は寒さと船の動揺を覚へる。Norway 海岸を離れて大洋に出る。所謂海岸際のあれと思はれる。時を経るに従って動揺はおさまったが海上急転の為 Sea of Sick にかかるもの多し。例のオース〔ト〕リア人も Sea Sick にかかり朝飯を抜いた様子である。我々の仲間でも日大の柳沢君は飯抜きと Dance にていささか疲労を覚へた様である。

自分も幾分ヨイを感じたと見へてねむくなく船室にてねながら、支那革命外史をよむ。譚人風を評せる言葉の中に漂木奔流に従って去る。巨巖独り波間に聳へて動かず強り、偉大な人格の感を抱く。斯の如き人現代に果たして幾人あるか。

午後五時一等のサロンにて藤原銀次郎のカクテル Party に出る。同船の日本人十六人同席す。Norway Iceland の中間の大西洋中に十六人の日本人の会する亦奇績と云ふ可きか。三井関係の人あり、吉岡（医博士）親子あり、齒科学生あり、立教、商科大学の留学生あり、それに藤原氏、私の如き者、北哲学者、正に呉越同舟である。国内に於ては夫々の立場の者も外に出れば一体である。此処に日本の強き所があるのである。

藤原氏は前記の多く〔如くカ〕九月六日のナチスの大会に招待されて来たのだが時

局急変に Sweden に立寄られ自分の寄附した茶園の開演式を行って来た由である。藤原氏王子製紙王国の中心だ。幾多の社会立法が作られる時は資本家陣営の代表として反対の急先鋒たりし人であったが、最近800万円を寄附して藤原工業大学の設立を計画して大に転向しつ〔つ〕ある資本家である。学校開設は大に人気を博して居るが、万国博覧会会長として万博が中止になり、亦ドイツに招待されてその機を得ず何だかお気の毒の感なきに非ず。然しあの老軀を引っさげての渡欧その意気には感ず可きである。

Radio News によれば野村学習院長、外務大臣となれる由。日本の対米政策を示すものか？ Romania⁷⁰⁾ に暴徒おこり総理大臣は暗殺され参加軍人は約四百名殺された由。戦争の拡大は中立国のなやみを増してゆく。亦ドイツの將軍 戦死したと報ぜらる。之には彼は反ナチ的だったから暗殺されたのではないか？ デマは乱れとぶ。

Iceland 一人口、約十余万。王様あり。議会あって政治をなす。

Greenland 一人口約十七八万、デンマークの植民地。

今日も船は北西に向って走って居るが、亦こんな北に来ようとは夢にも考へざる所である。船は約17哩〔哩〕の速力。U-Boat ももう大丈夫と思ふ。風強し。

9月25日 晴、海静か

船が西に走るので今日は時計70分 Back せしむるので8時に起きたが実は6時50分。時間が余りすぎて閉口する。今日は一日中、中央公論をよむ。得る所多し。My Voyage に集録する。船のコースを掲示しなくなったので何処を走って居るか一寸不明だ。U-Boat が出て Norway の船、Sweden の船を沈めたとかとデマが飛ぶ。Purser から呼出があったので出て行くと、君の一番近き人の住所をと問ふ。公的な旅行なので Mr.Koyama Kojimatiku Tokyo Japanese Diet⁷¹⁾ と登録す。

運動不足か腹がへらぬ。甲板を歩き廻って見たが、矢張食べすぎる形である。西洋人は三回の外に三時頃御茶、10時亦夜食し且その間に酒を飲む。そして Kino と称してバクチの如きものをやり Dance やる。食ふのと享樂的には驚く。

今日は幾分暖い様な気がする。北緯60何度かを走って居るのだが暖流の関係がそうさして居るのであらう。

9月26日 晴 海穏

6時に起きて中央公論をよむ。今日のラヂオで Warsaw はまだおちないと伝えて居る。死物狂といふが人間が真剣になると強いものである。ラヂオは、ドイツはロシア

70) 原文では Rumania。以下同様。

71) 原文では Diete。

軍の来るを待って居るといふが如何なる意味か不明である。亦ロシアは軍をエストニアの国境に集中したとの事である。或はエストニアに出るかも知れない。ロシアとしては海に出たいし、亦エストニアにはオイルセールのある処、或は〔と〕いふ事が考へられる。

亦英仏ソの軍事同盟の不成立に終った事は英仏がソのバルト海に出る事を拒否したからだと言はれて居る。然しこうなると何が何やら分らなくなり、一体ロシアは軍を動かすに如何なる明文〔名分〕を以てするか。彼、今迄の言ひ分では世界を納得せしむる理由には行くまい。

最近のヒットラーの動きと云ひ、ロシアの動きといひ□□理論といふか理屈はつけものにて、すべては民族と国家が生きる為には何でもやると云った形。正に天亀元正の戦国時代である。

此の欧州の動向はアメリカに如何にひびくかアメリカも議会を開会して embargo⁷²⁾ 問題を議するらしいが Roosevelt は如何によ論を指導するか？ロシアきらいあり、ロシアすきあり、ヒットラーのきらいあり種々な議論が沸騰して来るに相違ない。

野村大将の外相就任は愈々日米外交調整にのり出すらしいが、一体現実の姿九カ国条約を無視してやって居るのに調整出来ると考へる所に無理があるのではあるまいか？日本は欧州の戦争を一個の天佑と考へる向きもあるが天佑には相違ないが、次に来るものにそのへる為に今から準備すべきである。それは自主独立の力を養ふ可きではあるまいか？民族全体主義は→超民族地域主義に発展すべきではあるまいか？すべては国家と民族の飛躍の為に考へねばならない。

午後 Germany Speaks を字引を引きながらよむ。今回の旅行の収穫の一つは字引を引いて本をよんで見る様〔に〕なった事もその重要なものの一つである。Hitler は First Soldier⁷³⁾ として西部戦線に立ったとの事である。First といふ所に芝居気たつぷりといふ所もあるが、第一線に立って行く所に面白い所がある。

今回も舟の方向を掲示しない。然し大分暖かくなって来た。Conburg を出て五日、もう Iceland⁷⁴⁾ の南ではあるまいか？

【欄外】

Finland Estonia Latvia の運命はどうなる。Lithuania

72) 原文では embargo。

73) 原文では Solder。

74) 原文では Island。

Supper Nation Regionalism ——杉森孝次郎——

9月27日 曇 霧深し

今日は非常に霧が深い。その上に船は同動揺を覚へる。7時に起きて9時に朝食と相変らずの生活だが、大川周明の二千六百年史を読み終る。得る所多し。特に氏が愛国の熱情に燃へながら革新の必要をとくあたり、自分のからだにしみ込んでゆく様な気がする。

今日ラヂオニュースはロシアがエストニアに武装解除を要求しドイツはRomaniaにのびるであらうと云はれて居る。露独不可侵條約の裏にはPolandの分割あり、更にロシアはバルト海に、ドイツは南にのびるとの密約があったのではないかとさへ思はる。エストニアはロシアの侵入に対して如何なる態度を取るか。反抗すると云ふ者と屈服するといふものあり。若し反抗するとすれば、Finland之を支持し、Sweden支持し、Norway支持、更にEnglandのロシアに対する宣戦布告となる〔に〕非ずやといふものある。帝国主義者ならざるロシアも海と資源はほしいのだ。

亦、ラヂオは支那に於ける我が軍が長沙に向って進軍中と伝へらる。新中国建設前にして占領地域の確保、並に治安維持、特に海岸線全体の確保に邁進して居る姿だ。

Romaniaは石油は一年約600万噸を産する為にドイツに取って必要な地区だ。先の欧州大戦にはRomania、セルビア、ギリシア、トルコ、ドイツが最初掌握せる所である。

Radioはバルト海にて海軍の戦が行はれたと伝へて居る。西部戦線にはドイツは約百万の大軍を集結して居るが自分の方から積極的に戦ひを挑まないらしい。

夜は2千6000年をよむ。

9月28日 晴 海は穏かなれ共白波を見る。

今日のニースはドイツのリイバンドロップがモスコーにとんでロシアを通じて英仏に平和的解決を申込むとか報じて居る。ドイツは何等かの手を打つだろうとは考へて居たが、此の方法は余り手際のよいものではない。Hitlerは、アメリカ大統領に対し、帰省中の駐独大使を派遣方を要請して居るが、之も果して如何なる結果になるか想像つかない。亦、伊多利のムツソリーニも平和的解決を主張して居る。

之等の活動は、Hitlerが国民を奮起せしむる手段として考へて居るのか、亦是真に以上の方法を以て解決手段を求めんとして居るか不明であるが、如何なる外交手段も今となっては無力、戦局は拡大してゆくのではあるまいか。支那事變が我が国の不拡大方針に拘らず、拡大して行った様に。

船は今日で乗船してから8ヶ目、出発してから七ヶ目だ。U-Boatの危険は去ったが、

英軍艦の臨検がありはしない [か] と心配する向もある。然しそれも今日一日といふ。コースは半途を過ぎた。10月3日頃は New-York に着く。船の生活は単調なものもあきを覚へる。ただ本の読めるのが何よりのたのしみ。

今日、亦ドイツの U-Boat は Norway 沿岸にて Sweden のベルギー行貨物船を沈めた由。中立国の貨物船頻々として沈められるが、大した抗議も出来ない所に中立国の弱味がある。

Warsaw は昨日陥落したやに伝えられて居るが、よくこらへたものである。ドイツがワルソウの一角に入ってから約二週間になる。幾度かのドイツの勧告にも拘らず、一致団結以って頑張った Poland の民族精神には感激するものがある。

今回の支那事変に就ては、我が国の行動に就て、とや角の批判が行はれたが、それ以上の人道の域を越へた行動が展開されつつあるのである。今日の形勢よりして何時戦ひはやむか分らぬ状勢であるが、我が国と異って個人主義を基調として [る] 各国の組織はその内部矛盾を激化せしむるやに非ざるかの観測が行はれる。

特に食糧問題がその大なるものである。欧州全体としても平時であっても食糧は不足する。加へて戦争、経済封鎖は各国に問題をおこしつつある。特にドイツに於ては、約二割の不足であるが、戦争で更に二割の不足を来す結果になる。四ヶ年計画なるを如何に打開して居るか? 之が問題である。

エストニアは如何にしてロシアに対立せんとするか。今日はニースが入らないが、若しドイツが Romania にのび、ロシアに Baltic 海に Free hand を与へる事になれば、問題は更に深刻になって行く。戦争の結果はどなるか、之は予断を許さざる所であるが、如何に拡大してゆっても大戦各国が第なる犠牲を払って漁夫の利を占むるは、Russia に非らざるか? 大に警戒を要す可き点と信ず。

Baggage の調査書配布される。そろそろ下船の用意。アメリカも近くなって来た様な気がする。今日は50分 A.M.4に Set Back⁷⁵⁾ をした。

9月29日 曇時々雨あり 海穏か

昨日同様霧が深い。今日は昨夜12時頃迄飲んだに拘らず6時に目がさめる。相変らず北代議士と議論する。甲板に出て食事前の運動をなす。はるかかなたに貨物船が見へる。同じ方向に於て進んで居らしい。大洋に出て始めて船を見る。何となく親みを増す様な気がする。

今日のラヂオニュースは、ロシアがエストニアに於て空軍と軍港の根拠地を得たと伝へて居る。空陸の根拠地を与へた事は、エストニアに取っては大きな犠牲に相違な

75) 原文では Sete Back。

い。

西部戦線の由。ニュースもあるが、互に大砲を以って戦って居るが、所謂空中戦は展開されない。防備の完備する場合は、飛行機もその機能を発揮するは困難らしい。欧州に戦争が始まれば、交戦国は直ちにその首府を襲ふであら〔う〕との観測は裏切られて居る。

我々の乗って居る船は二日に New-York に着くかも知れないと云はれて来た。予定は三日だったが、一日早くつくり。航路を切務秘密にして居る一日に如何走って、何処を通過して居るか分らないが、大西洋を横断する為には時計を約5時間 set back せしむるそうであるが今日迄に最初70分、次に60、50分、昨日30分、3時間半 Back せしめて居るから、残1時30分を3日としても丁度二日夜は着く事にならうとの事である。

今回の戦争には何処の国にも下から沸き挙って居る感激がない様な気がする。英国には昨年のもミュンヘン会議の失敗を取戻さんとする国民的感激の薄い様な気がする。ただ Poland が予測より非常に頑張ったのは、亡国にならんとする民族の最後の頑張が現れたものと感じられる。ドイツは開戦と同時に三週間で平定すれと豪語して居たが、約一ヶ月をロシアの力と協力してかかって居る。Riga 駐在の小野打武官が四十日間はかかるかと観測されて居たがあたり居たと思ふ。

今日は電報通信編輯のドイツ大観をよむ。その社会政策、労働政策には啓蒙される所多し。ただ、前述の様に、之等の施設を現実に見ずに帰る事が遺憾に感ずる。亜米利加に亘っての予定は、貨物船でハナマ運河を通る事も一方法と考へられるが、兎に角 New-York に行つて、郵船会社に行つて様子を聞いて決定することにする。

21日に Copenhagen を出て、今日迄の旅行何としても政治的避〔難〕者の一人とし〔て〕避難船に乗った様なものだ。今日で二回風呂に入った塩水（海水のみにて何等あがり湯を与へられない。旅客は三等500名、一、二等500名、更に船員460名の大人数だから止むを得ないかも知れない。

今回の旅行は太平洋11日、Overland 5日間、大西洋8日間、更大西洋12日、Overland 5日、太平洋14日計55日。殆んど半分は汽車と船の上の様なものである。ただ、呉越同舟、各異国民の中あって、種々なる話を聞きながら旅行する事も、自分を訓練し、きたへ、我が国の世界的立場を認識せしむるには充分役立つと思ふ。

毎日式時間の運動するが充分でない。Bar 船の上の生活。大きなホテルの生活。Bar、Moving picture、Dance すべての娯楽機関はあるが、開放された監獄の様なもの、それ以上の事は出来ないし、変化がない。明けても明けても同じである。此の中で自分をきたへるのも与へられた絶好の機会。大に努力せんとするが、果して役にたったかどうか疑問である。5時入浴、相変らずの塩湯、一寸気持ちがよくない。湯

が出て海を見れば、船の右舷に陸地あり。名を聞けば Canada Newfoundland⁷⁶⁾、New-York も近づいて来た。

9月30日 曇 海穏

6時半に起きてドイツ大観をよむ。船も愈々1日朝か昼にNewYorkにつくらしい。多数の旅客も晴れやかになった様な気がする。昨日 Newfoundland が見へた時迄に、約2500哩を走って後1000哩といふ所に来たのであるが、1000哩を約2日半で丁度1日朝頃着く計算になる。

今日のニュースはモスコーからドイツとロシアは協定して Poland の独立を認めないで分割する。そして、それを承認しろと英国に申し込んだと報じて居る(レツペドロップはロシアに飛んで居る)。9月2日 Hitler は Danzig の演説に於て Poland 人が居住するに必要な土地は与へると宣言したらしいが、それと今日のニュースとは大いなる相違がある。何れが本当であるか一寸見当がつかない。

西部戦線はドイツはだいたい侵入せられて、ザール地方は占領され、50有余の村が占領されたらしい。戦は愈々深刻になってゆく。亜米利加にも孤立主義者と Carry and Cash の説と対立し、上院は外交委員会を開けて体度決定するらしい。此の欧州の形勢に対して、アメリカが如何なる体度を取るか非常なる見物である。

今日は Smoking Room にて三井南君、東洋綿花 [] 君、北代議士、鮫島博士と種々話合ふ。午後四時から先日藤原氏の招待を御返へしするつもりで、First Cars の Smoking Room にカクテル Party を開く。四時に集って各自写真機をもって居るので思ひ思ひに写真を取り大に話合ふ。前にも書いた通り、日本人十六人が大西洋の上、然も Sweden の船の上にて会を催し、語り合ふのも何かの因縁ではある。

愈々大陸横断をして帰ると決定したが、今回の旅行で感じられた点は多々あり。何れ取りまとめることにするが、一番痛感する事は日本人がもっとよく外国の政情、事情を知る事だ。最早日本の政治は世界の政治の動向を離れて議論の出来ない時代にも拘らず、余り知らなさすぎはしないかと考へられる。

然しこの事は決して西洋の真似し、模ホウし欧化に陥ることではない。日本には列国に比較して最も勝るものを以て居る。吾等は此の勝れたるものを生かしてゆく為に大に努力せねばならぬ。然しそれは古^コロウなる狭隘なる考へ方に非ずして、日本主義の最もすぐれたるあらゆるものを同化してゆく、こなしてゆく、あらゆるものに方向を与へるの立場でなければならぬ。

あらゆる世界の形勢の中にあつて我等が東洋の新秩序に就て考へる時、今こそ新た

76) 原文では Newfandland。以下同様。

なる尊皇攘夷論の抬頭すべき時にあらざるかを思ふ。東洋の天地を中心として、新尊皇攘夷論の実行こそ真の東亜新秩序建設ではあるまいか。幕末ペリリ来る黒船来るを見て立てる当時の勤王党志士の様に、世界の状勢達観の上に東洋からあらゆる外国支配を放逐して新秩序を建設するの時に非らざるか？

東亜聯盟論と云ひ、東亜新秩序と云ひ、東亜協同体と云ひ、新尊皇攘夷論に非らざるか？決してそれは所謂帝国主義ではない。Nationalism と Nationalism の上に新たな東洋精神の確立、新たな秩序の確立である。蒋介石が此の東洋精神に目覚めず、英国と結び、ロシアと結んで、我日本と対立する所にその誤ビュウがある。汪兆銘が之に目覚めて我国と協力、反共の精神を以て支那革命の精神を生かさんとする所にその意義がある。

午後4時より、コクテル Party を開いたが、藤原氏御土産を持参さる。開いて見れば川柳にて非常におもしろし。亦 [] をされたが、San-Francisco (桑港を糟糠の妻 New-York を入浴ともちって長谷君の長門の電報〔カ〕を題材に一句よむ。興味津々となるものがある。柳沢君の提唱でオーロラ会を作る事になった。

10月1日 晴 海穏

愈々明日 New-York につく事になった。数へて見れば九十日大して長い事もないが可成り長く思はれた旅行である。昨日の Party の会費を集めて吉岡君にとどける。会計7\$といふ。安くあがったと思ふ。写真を取ったのを竹内技師(フジフィルム会社)に依頼し現像して各人におくって頂く事を依頼す。

今十日間の船旅行を顧みて感じた点を摘記して見れば

1. 云はば政治的避難としてドイツをのがれ Copenhagen に待機して此の船に乗ったのであるが船がドイツの U-boat、イギリスの点検をのがれての航行の為に Norway 沿岸を pass し Ireland の南を経て Canada 沿岸に来る迄の経験は自分の人生記録の中に思出となる一記録であらう。

自分は知らざる者の大日参といふか、或はすべてが運命であり宿命と考へる考方が漸次成長してゆくのか、割に無関心であったに拘らず他国民の心配をする姿は、政治的避難民の姿そのものの様な気がした。

2. 同船日本人十六名ではあるが、此の日本人が兄弟であるかの如く、亦親子であるが如く日本人として御互に語り合ひ、助合った。会話は矢張民族がすべてを超克して一番強きもの、伝統、地域、血縁が一番強いといふ感を深した。

3. 政治的避難民を多数収容して居る関係が非常に Service の悪いのには閉口した。

4. 一日の Radio で移りゆく姿を大洋の真中にて感知したが、船は丁度開放された監獄の様なもので、きくのみで如何ともすることが出来ない。然し、一寸した

News にてもそれを中心に、それからそれを自己の観察力を深め、非常なる研究心を増してゆく。知己、友人の居らざる外国の地にて勉強する人監獄にて勉強する人の心持。その能率のあがることがよく分る。

5. 船中にて外人の生活を見て、食ふ飲む踊るよく自分を享楽してゆく姿は、一寸日本人に理解出来ない気がする。唯一つ感心せざる〔を得ない〕ことは他人を侵さなまいといふ事である。飲んでも彼等は他人にからまない。他人に強要しない。此の点は飲んでではからみ、他人に強要する我々としては大に学ぶべき点と思ふ。
6. 今回の船中のみではないが、外国を旅行して偉大になってゆく日本の姿がよく分る。船中にも多くの日本語を解する人あり。亦多くの人は所謂嘗つて Jap と云つて日本を軽べつした時代から、日本を尊敬しない迄もその力は認めて来たと云ふ感を持つて。
7. 日本人十六人が Gripsholm に同船してオロラ会を作つたが、之も将来各方面に活躍する人多数あり、得る所多しと考へられる。
8. 愈々アメリカを横断、日本に帰るとなると祖国の地をふむ感激はおこつて来るが、もっとよく赤裸々な欧州、特に新たに生れ〔ん〕とする欧州の姿を見たいと思つてその出来なかつた時は遺憾だといふ念が出て来る。

明日は愈々下船なので、北氏と相談して Waiter 並に Cabin Boy に 5 \$ 宛チツプを出す。大西洋横断船は First Class 1.5 Second 〃 1—が通例らしい。New York にては、二、三日滞在の予定である。本日は変つた News もなし。

10月2日

大体の予定は3日に着くだらうと予想されて居たが2日に就いた。船も大分 Full-speed を出して来たらしい。Hadson River の入口にて税関吏乗せる。Passport の点検を始め、丁度九時に棧橋につく。我々の点検はおくれて11時半頃下船す。荷物揃はざる為に一寸まごつたが、三菱の松下君の案内にて税関の関係も Diplomatic に pass して Pennsylvania Hotel に落つく。Hotel は 2千有余の部屋を持つ Hotel だが非常に感がよい。

松下、浅沼、北三者にて簡単な食事を済ます。同盟通信の萩原君より電話あり。北氏と共に旅行より得たるものを話す。自分は欧州の現実の姿を見て、国家と民族が生きる為にはあらゆる ism を超越して居る姿をはっきり見たと話す。鮫島君も同じ Hotel に宿る。

夜は鮫島、萩原、松下、北氏と共に都にてすき焼、味噌焼、キウリモミ、味噌汁等を食したが、久しぶりの日本料理、特に牛肉に松たけは非常にうまかつた。亦現下世界の状勢、我が日本の処する道等を語り合ひ、得る所多かつた。食事後、News 館にて

最近の世界ニュースを見たが、Moving Picture □□物質文明は亜米利加が第一といふ感を充分持てる。10時半に帰宿、ねる。

今、此処に Gripsholm 号にて同船の外国人より聞きたる二、三の話を摘記しておこう。

1. アメリカのスチル会社の技師の話に自分は約一ヶ〔年〕間技師としてロシアに居り、約千七百哩を旅行したが、ロシアが機械化して居るといはれるが、機械化して居るのは少部分で、大体は手でやって居る。彼等は機械の使用の道を知らず、修繕が出来ない。特に女技師が多いのには驚いたと云って居た。

亦物価は高い。アメリカの一\$を五ループルにかへるが、靴の如きは約五十\$位出さねば買へない。買ふと思つても品物がな。特に政治的の話は一切禁物で自分は下宿して居たが特別の部屋以外は政治の話せず、非常な警戒振りである。

2. 亦、リガ生れにてツアアのナースをして居ったといふ老婦人が、自分の親戚があるのでロシアに行ったが親戚は来てくれぬな、話をして呉れるなど云つた警戒振りであった。ただ自分は、ロシアに於てはジウ〔Jew〕の勢力が漸次おとろへて、リトビノフの如きも殺されたとの噂がある。亦スターリンもジューに非らざる昔の妻君の所に入出し

【欄外】モロトフ、ロゾフスキー、

カメネフの嬢とは別居して居るとの事である。(革命当時乱暴したのはジュー)従つて露独の接近も嘗てトハチェフスキー派の親独派をやつつけた政府がHitlerと結ふといふもジューの勢力振はざる所に起因すると(政府要職にあるもの七、八)生活的に幾分后上は認められたがまだ物資は不足して居ると。

3. 今回の戦争は考へ様によればロシアも既に共産主義から逆もどりして現在では国民的民族であり、ドイツも多量に社会主義的傾向を取り入れて居る。従て今回国際的に見ても、持つものと持たざるもの社会主義と国際主義の戦であるとの論をする人もあつた。

4. 亦前記のリガ生れの婦人は、自分はリガに行つて若き時代に其処に住んで居り、自分の夫は将官でつたがボルシェビキの為に殺されたが、今回リガに帰つて自分の思ひで若き時の所等がなつかしくてなけた。自分は出来ればリガに住みたいと。之等の人々の愛郷の心持がよく分る。

5. アメリカの婦人は、我々は君主制王制の政治がよい。選挙で次には誰かなるか分らない様な国に生活する事は不幸であると。

6. ロシアのジューの没落、ドイツのジュー追放から見ればジューとantiジュー派の争とも考へられると。

7. 亜米利加も近き将来にジューの問題は重大になるとNew-Yorkの如きは約1千万

の人口中3百7、8〔十〕万ジューにて、ジューヨークとさへ云はれて居る。

8. オーストリアの如きも最初ドイツ合併を喜んだが、現在は税金がたかくなり、労働時間がました為に幾分反Hitler 的の所がある。

以上は、北氏が各方面の人々と話合つて得た話しを食事の折に話されたものを書きつらねたのであるが、□参考になると信ずる。

Hitler は今日議會を召集10時に演説をなし、平和を作る為の宣言をするらしいが、明日の新聞がたのしみである。Hitler は Poland の占領地区に対してアルバイトジェレストを派遣して冬出来る麦をまいて、大に食糧増産に努力して居るとの事である。

イギリスが一体如何なる体度を取るか、我々は東洋の犠牲に於て英独の妥協を監視せねばならぬ。今回は、英国も大分腰をすへて居るらしいから妥協しまいと思ふが、金持ケンカせず監視の要はある。併し、英国の伝統的政策は欧州大陸には自分より強い国は作らないといふのが彼等の伝統的政策である。

汪兆銘政権も双十節には愈々出来るらしいアメリカが九ヶ国條約違反で何かやるかも知れないと思はるが今は沈黙の形である。アメリカに於ては新中立法改正の為に今日から臨時議會が開かれて居る。Carry and Cash と Isorate⁷⁷⁾ 孤立主義者の間に猛烈なる討論があろう。然し現金を持って来る国には品物を売ると〔い〕ふ事になって表向は非常に公平で、実はドイツを打つといふ戦法になるのではあるまいか。

Queen Mary が Hadson 湾頭で巡洋艦に変装して大に戦争の気分を漲にして居た。世界の形勢が以上の如く変化してゆく時に我が日本は如何に進む可きか？ 東亜新秩序確立の為に邁進するは当然だが如何なる外交方針を持つべきか。対英、対米、対露政策は如何に決定すべきか、課せられた重大問題。

寺内大将（大角、井坂、藤原氏と共にナチ大会に国賓として派遣され大会開かれずいはば偉大な失業者）はロシアを通過して帰るとの事。然ロシアが歡迎的体度を取るかも知れぬと前にも書いた所、昨是今非か今非昨是か、昨日の友は今日の敵、人間万事塞翁が馬か？ アメリカにても、東京、ローマ、モスコウと云つて非常に心配して居る部分もあると一寸想像のつかない事だ。

15日には避難民をのせて鹿島丸が入るそうだ。鎌倉で帰るか、鹿島にするか、明日郵船に行つてよく相談して見る必要がある。

New York には8月2日に出て以来、二ヶ月を経て10月2日に二度目に来た理由だが、最初の時と異なつて幾分落付いて旅行出来る様な気がする。云はば、幾分旅行になれたのかも知れない。アメリカの議會で如何なる議論が行はるるか、聞きに行きたい様な気がする。

77) 原文では Isolut。

Poland は、政府要人が Romania に逃げとんだ時、多くの人の前で Reg は参謀長に対しお前の戦術は何だと、亦参謀長はお前の外交は何だと御互にののしり合ったとの事である。

何時も日記をつけざる者が今回の旅行には思ひでるまま感ずるまま聞いた事、見た事、書き連ねて見て一冊が終る。更に今後つづ〔け〕て行くつもりである。

船田代議〔士〕は、藤原氏の秘書□喜多氏の話によればロシアを通過して帰る為にヘルシンキに9日頃行かれた由。大池書記は靖国丸かシベリア通過か、一寸不明だ。明日郵船に行けは分ると思ふ。

第35回列国議会同盟会議 衆議院参列議員団				
旅程〔当初予定〕				
「新聞切抜（渡欧米関係）昭和14.6～7」（「浅沼稻次郎関係文書」-2496）より筆者作成				
月日	発着地		備考	
6月 30日（金）	東京発（小田原行列車）		午後 1時40分	
	横浜出帆（平安丸）		午後 4時	
7月 11日（火）	バンクーバー着（上陸）			
	バンクーバー発（自動車又は列車）			
	シアトル着（2泊）			
13日（木）	シアトル発	ポートランド着	コロンビア沼河探勝等	
14日（金）	ポートランド発			
15日（土）	サンフランシスコ着（4泊）			
16日（日）	博覧会見物			
18日（火）	サクラメント行			
19日（水）	サンフランシスコ発	ロサンゼルス着		
20日（木）	ロサンゼルス発	サンディエゴ着		
21日（金）	サンディエゴ発	ソルトレイク経由		（又はサンタフェ線）
25日（火）	シカゴ着	シカゴ発		
26日（水）	ナイアガラ着	ナイアガラ発		
	ニューヨーク着（4泊）			
30日（日）	ニューヨーク発	ワシントン着（2泊）		
8月 1日（火）	ワシントン発	ニューヨーク着		
2日（水）	ニューヨーク出帆（オイロパ号）			
7日（月）	サザンプトン着	ロンドン着（2泊）		
9日（水）	ロンドン発			
10日（木）	ベルリン着			
11日（金）	ベルリン発			
12日（土）	ストックホルム着			
13日（日）	ストックホルム発			
14日（月）	オスロ着			
15日（火）	第35回列国議会同盟会議			
19日（土）				

会議後			
月日	発着地		備考
8月 21日 (月)	オスロ発	ストックホルム着	
22日 (火)	ストックホルム発	ヘルシンキ着	
23日 (水)	ヘルシンキ発	タリン着	
24日 (木)	タリン発	リガ着	
25日 (金)	リガ発	ダンツィヒ着	
27日 (日)	ダンツィヒ発	ワルシャワ着	
29日 (火)	ワルシャワ発	ベルリン着	
滞在中、ハンブルク コペンハーゲン、オランダ方面行 ナチス党大会 (約7日間)			
9月 6日 (水)	ニュルンベルク		
10日 (日)	ニュルンベルク発	ブラハ着	
11日 (月)	ブラハ発	ウィーン着 (2泊)	
13日 (水)	ウィーン発	ブダペスト着	
14日 (木)	ブダペスト発	ミュンヘン着	
15日 (金)	ミュンヘン発	ハイデルベルク着	
16日 (土)	ハイデルベルク発	フランクフルト着発	(ライン下り)
17日 (日)	ケルン着		
18日 (月)	ケルン発	ロンドン着 (4泊)	
22日 (金)	ロンドン発	パリ着 (3泊)	
25日 (月)	パリ発	ボルドー着	
26日 (火)	ボルドー発		
27日 (水)	マドリッド着 (2泊)		
29日 (金)	マドリッド発	リスボン着	
30日 (土)	リスボン発		
10月 1日 (日)	バルセロナ着		
2日 (月)	バルセロナ発	マルセイユ着	
3日 (火)	マルセイユ発	ローマ着 (4泊)	
7日 (土)	ローマ発	ナポリ着	
8日 (日)	ナポリ出帆 (鹿島丸)		
11月 11日 (土)	神戸帰着		